

(様式第10)

愛大医総第226号  
令和2年10月2日

厚生労働大臣 田村 憲久 殿

国立大学法人愛媛大学  
学長 大橋 裕

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏 名	国立大学法人愛媛大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛媛大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒791-0295 東温市志津川454 電話(089)964-1111
-------------------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科      ②消化器外科      ③乳腺外科      ④心臓外科 ⑤血管外科      ⑥心臓血管外科      ⑦内分泌外科      ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科      ②小児科      ③整形外科      ④脳神経外科      ⑤皮膚科      ⑥泌尿器科      ⑦産婦人科 ⑧産科      ⑨婦人科      ⑩眼科      ⑪耳鼻咽喉科      ⑫放射線科      ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科      ⑮麻酔科      ⑯救急科
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科      ②矯正歯科      ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 膠原病・リウマチ内科      2 高血圧内科      3 アレルギー内科      4 糖尿病内科      5 老年内科 6 薬物療法内科      7 総合診療科      8 消化器腫瘍外科      9 食道・胃・大腸外科      10 内視鏡外科 11 肝胆膵・移植外科      12 乳腺・内分泌外科      13 形成外科      14 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 15 病理診断科      16 リハビリテーション科      17 臨床検査科
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	2床	一床	一床	602床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	223人	167.4人	390.4人	看 護 補 助 者	56人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	7人	8.8人	15.8人	理 学 療 法 士	13人	臨床検査技師	50人
薬 剤 師	49人	0人	49人	作 業 療 法 士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	その他	0人
助 産 師	14人	0人	14人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	677人	14.1人	691.1人	臨 床 工 学 士	16人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	6人	0人	6人	歯 科 技 工 士	2人	事務職員	145人
管理栄養士	9人	0.5人	9.5人	診療放射線技師	35人	その他の職員	18人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	51人	眼 科 専 門 医	13人
外 科 専 門 医	39人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精 神 科 専 門 医	6人	放 射 線 科 専 門 医	17人
小 児 科 専 門 医	26人	脳神経外科専門医	9人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	19人
泌尿器科専門医	13人	麻 酔 科 専 門 医	51人
産婦人科専門医	14人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	288人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 三浦 裕正) 任命年月日 平成30年 4月 1日

平成22年4月1日に整形外科の教授に就任後、診療科長として医療安全管理委員会の委員となり、平成27年4月1日に病院長に就任し、平成30年4月1日から2期目を迎えている。病院長に就任後は、医療安全管理委員会の委員長を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	523.0人	13.6人	536.5人
1日当たり平均外来患者数	1,263.7人	52.2人	1,315.9人
1日当たり平均調剤数			882.4剤
必要医師数			128.56人
必要歯科医師数			4.31人
必要薬剤師数			18人
必要(准)看護師数			313人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	431 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	22床	心電計 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	心細動除去装置 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	ペースメーカー <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 294 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	15床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 20 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名				
化学検査室	302 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光抗体法分析装置 全自動化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	266 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物感受性分析装置 リアルタイム濁度測定装置		
病理検査室	175 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 液状化検体細胞診標本作製装置 IHC/ISH自動染色装置		
病理解剖室	399 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、局所排気装置		
研究室	314 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、プロジェクター、顕微鏡		
講義室	734 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	18室	収容定員 660人
図書室	99 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数 1,427冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99.2%	逆紹介率	62.8%
算出 根拠	A：紹介患者の数	13,628人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,085人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	711人	
	D：初診の患者の数	14,459人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西村 誠明	無所属	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
大熊 伸定	弁護士法人松山中央弁護士事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会／愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 愛媛大学ホームページの情報公開のページ内に、「附属病院における医療安全管理について」という事項を設け、監査委員会規程及び委員会名簿 (選定理由を含む) を公表している。	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	53
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性拡張型心筋症	22
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	12
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	7	60	再生不良性貧血	14
6	パーキンソン病	108	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	28
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	56	66	IgA腎症	8
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	17
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	79	68	黄色靱帯骨化症	21
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	15	69	後縦靱帯骨化症	70
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	67
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	20	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	19
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	19
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	5	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	21	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	42
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	54
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	16	89	リンパ管筋腫症	3
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	22
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性胆管炎	33
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	21
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	52
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	87
43	顕微鏡的多発血管炎	46	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	20	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	0	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	1	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	155	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	80	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	66	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	42	107	若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	14	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	23	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	8	110	ブラウ症候群	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	21
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	5
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	4	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウイリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	14	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	7	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	5
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	39

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	カナバン病	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
0	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
0	進行性ミオクローヌスてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
0	先天異常症候群	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
0	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
0	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	0
0	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	0
0	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	0
0	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
0	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	0
0	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	0
0	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
		331	特発性多中心性キャッスルマン病	9
		332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク分娩管理加算
歯科外来診療環境体制加算	後発医薬品使用体制加算1
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算1
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1	病棟薬剤業務実施加算2
特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1	データ提出加算2
救急医療管理加算	入退院支援加算1
超急性期脳卒中加算	入院時支援加算
診療録管理体制加算2	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	特定集中治療室管理料4
急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上)	特定集中治療室管理料4 小児加算
看護職員夜間配置加算(16対1(1))	特定集中治療室管理料4 早期離床・リハビリテーション加算
看護補助加算2	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
療養環境加算	新生児特定集中治療室管理料1
重症者等療養環境特別加算	新生児治療回復室入院医療管理料
無菌治療室管理加算1	一類感染症患者入院医療管理料
無菌治療室管理加算2	小児入院医療管理料2
緩和ケア診療加算	小児入院医療管理料2 プレイルーム加算
精神科身体合併症管理加算	短期滞在手術等基本料2
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
感染防止対策地域連携加算	
抗菌薬適正使用支援加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料の注2	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	遺伝学的検査
糖尿病合併症管理料	骨髄微小残存病変量測定
がん性疼痛緩和指導管理料	BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
がん患者指導管理料イ	BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
がん患者指導管理料ロ	がんゲノムプロファイリング検査
がん患者指導管理料ハ	角膜ジストロフィー遺伝子検査
がん患者指導管理料ニ	先天性代謝異常症検査
外来緩和ケア管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
移植後患者指導管理料-(イ)臓器移植後の場合	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
移植後患者指導管理料-(ロ)造血幹細胞移植後の場合	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
糖尿病透析予防指導管理料	検体検査管理加算(I)
小児運動器疾患指導管理料	検体検査管理加算(IV)
婦人科特定疾患治療管理料	国際標準検査管理加算
ニコチン依存症管理料	遺伝カウンセリング加算
療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
がん治療連携計画策定料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
肝炎インターフェロン治療計画料	胎児心エコー法
ハイリスク妊産婦連携指導料1	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
薬剤管理指導料	ヘッドアップティルト試験
医療機器安全管理料1	長期継続頭蓋内脳波検査
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	神経学的検査
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	補聴器適合検査
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	全視野精密網膜電図
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	ロービジョン検査判断料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	コンタクトレンズ検査料1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
小児食物アレルギー負荷検査	歯科口腔リハビリテーション料2
内服・点滴誘発試験	精神科作業療法
CT透視下気管支鏡検査加算	認知療法・認知行動療法1
画像診断管理加算3	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
遠隔画像診断	医療保護入院等診療料
ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	硬膜外自家血注入
CT撮影及びMRI撮影	エタノールの局所注入(甲状腺)
冠動脈CT撮影加算	エタノールの局所注入(副甲状腺)
心臓MRI撮影加算	導入期加算1
乳房MRI撮影加算	手術用顕微鏡加算
頭部MRI撮影加算	CAD/CAM冠
全身MRI撮影加算	歯科技工加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	センチネルリンパ節加算
外来化学療法加算1	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
連携充実加算	四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
無菌製剤処理料	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算	椎間板内酵素注入療法
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
運動器リハビリテーション料(I)	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
運動器リハビリテーション料(I) 初期加算	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
呼吸器リハビリテーション料(I)	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算	治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
がん患者リハビリテーション料	角膜移植術(内皮移植加算)
リンパ浮腫複合的治療料	羊膜移植術

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	内視鏡下筋層切開術
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
網膜再建術	胸腔鏡下弁形成術
人工中耳植込術	胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	経カテーテル大動脈弁置換術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術及び人工内耳用材料	胸腔鏡下弁置換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	経皮的の中隔心筋焼灼術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算1	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算2	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(小児を対象とする場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	補助人工心臓
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	小児補助人工心臓
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))	経皮的下肢動脈形成術



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術	腹腔鏡下仙骨腔固定術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胎児輸血術
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	輸血管管理料 I
腹腔鏡下肝切除術	コーディネート体制充実加算
生体部分肝移植術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
同種死体肝移植術	歯根端切除手術の注3
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	麻酔管理料(I)
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(II)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	放射線治療専任加算
腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	外来放射線治療加算
同種死体腎移植術	高エネルギー放射線治療
生体腎移植術	1回線量増加加算
膀胱水圧拡張術	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	画像誘導放射線治療加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	直線加速器による放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	保険医療機関間の連携による病理診断



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
・前眼部三次元画像解析	・
・内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	52回
剖検の状況	剖検症例数 14例 / 剖検率 10%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
革新的イメージング技術とがんモデルメダカを駆使したがん転移研究	今村 健志	医学系研究科	27,820,000	補○委 日本学術振興会
T細胞代謝リプログラミングによる免疫応答制御機構の解明	山下 政克	医学系研究科	4,160,000	補○委 日本学術振興会
幼児期行動的問題に関する遺伝要因と環境要因の交互作用解明を目的とした疫学研究	三宅 吉博	医学系研究科	5,200,000	補○委 日本学術振興会
トルコと日本の自己炎症疾患発症責任分子複合体を活性化する生体・環境因子の比較調査	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	5,590,000	補○委 日本学術振興会
途上国における子宮内胎児死亡対策の実証研究	岡 靖哲	医学部附属病院	4,030,000	補○委 日本学術振興会
一酸化窒素系を介した精神障害の発症機序を遺伝学的に解析する集団ベース研究	上野 修一	医学系研究科	3,640,000	補○委 日本学術振興会
新規抗体改変技術を用いたがん特異的一本鎖抗体の作製とがん免疫療法への応用	安川 正貴	プロテオサイエンスセンター	5,460,000	補○委 日本学術振興会
新規患者組織移植モデルを用いた全般的疾患モデル構築による腫瘍幹細胞純化と創薬支援	竹中 克斗	医学系研究科	5,460,000	補○委 日本学術振興会
トップダウンプロテオミクスによる分子夾雑環境におけるタンパク質分子の構造解析	武森 信暁	学術支援センター	2,860,000	補○委 日本学術振興会
代謝ーエピゲノムのクロストークによる慢性アレルギー性炎症の細胞社会形成	山下 政克	医学系研究科	4,030,000	補○委 日本学術振興会
スポロゾイトの分泌タンパク質輸送メカニズムにおけるRAMAの作用機序の解明	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	6,240,000	補○委 日本学術振興会
大動脈弁石灰化における骨芽細胞分化マスターレギュレーターの同定と機能阻害剤の開発	泉谷 裕則	医学系研究科	4,290,000	補○委 日本学術振興会
加齢によるサルコペニア疾患病態理解のためのエピゲノム制御機構解明	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	5,590,000	補○委 日本学術振興会

小計13件

microRNAによる劣化メカニズム制御と血液脳関門保護による抗認知症療法の構築	外山 研介	医学系研究科	460,185	補○ 委	日本学術振興会
サルコペニアの嚥下機能低下様式の解明-筋萎縮分子機構の解明-	田中 加緒里(西窪加緒里)	医学系研究科	390,000	補○ 委	日本学術振興会
ファミリー・バイオレンス予防のための地域参加型育児支援システムの開発	藤村 一美	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
在宅療養中の高齢糖尿病患者の生活と支援システムに関する研究	寺尾 奈歩子	医学系研究科	260,000	補○ 委	日本学術振興会
Cadaver(ご遺体)と大型動物を用いた腹腔鏡下上方照明システムの前臨床的研究	高井 昭洋	医学部附属病院	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
一般住民において、レジスチン遺伝子多型が耐糖能異常に及ぼす影響とメカニズムの解明	高田 康德	医学系研究科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
2型糖尿病における夜間の生活行動・睡眠状況と糖尿病合併症に関する臨床疫学研究	古川 慎哉	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
伝統薬物成分の免疫機能と腫瘍環境制御による抗腫瘍・抗転移効果とその作用機構	木村 善行	医学部	650,000	補○ 委	日本学術振興会
アルツハイマー病のインシグナル障害とアポモルフィン・インスリン複合治療	大八木 保政	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
消化管ホルモン受容体相互関連および機能発現機構の解析	松浦 文三	医学系研究科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
肥大型心筋症の心不全発症メカニズム-トランスクリプトーム網羅解析からの検討-	池田 俊太郎	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
新規キメラ型抗原受容体遺伝子を用いる成人T細胞白血病に対する免疫療法	谷本 一史	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
NICU入室新生児におけるビフィズス菌製剤の投与による正常腸内細菌叢の獲得	田内 久道	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
小児白血病の前白血病幹細胞の同定と標的治療の開発の試み	江口 峰斉	医学部附属病院	780,000	補○ 委	日本学術振興会
光干渉断層法を用いた先天性心疾患患者の狭窄性病変に対する組織学的診断法の確立	高田 秀実	医学系研究科	780,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

心房細動のバイオマーカーとしてのPETおよび半導体SPECTの有用性の検討	宮川 正男	医学部附属病院	1,430,000	補 ○ 委	日本学術振興会
軸索誘導因子セマフォリンによる薬剤抵抗性乳癌を標的にした新規治療戦略	亀井 義明	医学部附属病院	1,430,000	補 ○ 委	日本学術振興会
肺がんにおけるNEDD8を介したPD-L1発現制御機構の解明とその臨床応用	佐野 由文	医学系研究科	1,430,000	補 ○ 委	日本学術振興会
脳内レニン・アンジオテンシン系保護軸活性化による脳保護作用の解明	岩波 純	医学系研究科	1,560,000	補 ○ 委	日本学術振興会
梗塞巣への細胞浸潤を促進して脳梗塞を治す	久門 良明	医学部	1,430,000	補 ○ 委	日本学術振興会
呼気終末陽圧負荷による輸液過剰の検出アルゴリズムの開発	池宗 啓蔵	医学部附属病院	1,170,000	補 ○ 委	日本学術振興会
一過性の脳虚血障害が脳内アミロイドβ代謝と認知症発症に与える影響についての検討	関 莉娟	医学系研究科	1,560,000	補 ○ 委	日本学術振興会
前立腺がん細胞におけるCUL3システム破綻の解明と新規治療標的の創出	菊川 忠彦	医学系研究科	1,560,000	補 ○ 委	日本学術振興会
角膜実質再生を目指した骨髄線維芽細胞移植のバイオイメージング解析	林 康人	医学部	910,000	補 ○ 委	日本学術振興会
マウス表皮細胞から角膜上皮細胞への形質転換における上皮-実質間相互作用の検討	白石 敦	医学系研究科	1,560,000	補 ○ 委	日本学術振興会
三次元培養皮膚におけるエクリン汗腺の再現	亀田 健治	学術支援センター	1,170,000	補 ○ 委	日本学術振興会
脊髄損傷急性期の積極的平温療法は、二次損傷による神経学的予後の悪化を防ぐか	竹葉 淳	医学系研究科	1,300,000	補 ○ 委	日本学術振興会
一酸化炭素中毒による遅発性脳症発症の分子メカニズム解明のための研究	萬家 俊博	医学系研究科	1,300,000	補 ○ 委	日本学術振興会
口腔癌のCXCR4システムを介した転移機構における分泌型miRNAの役割	内田 大亮	医学系研究科	1,040,000	補 ○ 委	日本学術振興会
幼児期及び学童期における齲蝕リスク要因の解明を目指した出生前コホート研究	田中 景子	医学系研究科	1,170,000	補 ○ 委	日本学術振興会

喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	山内 栄子	医学系研究科	650,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
生殖補助医療を受けた女性の妊娠初期の適応を支援するオンラインプログラムの効果	崎山 貴代	医学系研究科	1,170,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
高齢者の潜在する排泄機能に気づく経験を活用した看護・介護職教育プログラムの開発	陶山 啓子	医学系研究科	1,170,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
認知症の同意・判断能力の簡易判定法の確立	谷向 知	医学系研究科	650,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
発達障害児の親のメンタリング過程により構築する包括的ケアプログラムの開発	西嶋 真理子	医学系研究科	1,040,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
睡眠障害の治療が就労状況に及ぼす影響に関する縦断的研究	淡野 桜子	医学部附属病院	910,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
サルコペニア、フレイル、動脈硬化、インスリン代謝と認知機能の相関解析	越智 雅之	医学部附属病院	650,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
流体力学の理論と実験的手法を用いた冠血流動態の解析	清家 史靖	医学部附属病院	1,170,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
Cキナーゼ阻害剤で誘導した免疫寛容樹状細胞を用いた抗原特異的免疫抑制療法の研究	松本 卓也	医学部附属病院	1,170,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
定量プロテオミクスによるANCA関連血管炎の活動性/臓器障害マーカーの同定と解析	石崎 淳	医学部附属病院	1,040,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
地域医療実習での地域診断手法の導入による地域志向性の滋養に関する研究	川本 龍一	医学系研究科	390,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
成長板を発生起点とする骨髄造血ニッチ形成メカニズムの解析	原口 竜摩	医学系研究科	1,560,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
体細胞初期化におけるTET1とp53の協調作用メカニズムの解明	徳澤 佳美	医学部	1,690,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
RSKキナーゼ群の機能差を生み出す分子基盤の解明と阻害剤による乳がん抑制への応用	福田 信治	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	補 ○ 委	日本学術 振興会
新規CUL3複合体による血管新生ブレーキ解除機構の解明	坂上 倫久	医学系研究科	1,300,000	補 ○ 委	日本学術 振興会

小計15件

膵癌早期診断を目指した 高危険度因子の同定およ び進行膵癌化学療法適応 基準の提唱	熊木 天児	医学部附属病院	1,170,000	補○ 委	日本学術 振興会
二分脊椎運動障害の内科 的治療法の確立ープロサ ポシン由来ペプチドの臨 床応用ー	カーン モハメド シャキル	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術 振興会
Toll様受容体を標的とした 制御性B細胞誘導による 多発性硬化症の新規治療 法の開発	越智 博文	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術 振興会
老年期うつ病とアルツハイ マー型認知症の鑑別を目 指した血液バイオマー カー研究	伊賀 淳一	医学系研究科	1,820,000	補○ 委	日本学術 振興会
肝がん治療支援システム の開発と遠隔診療体制の 確立	廣岡 昌史	医学部附属病院	1,040,000	補○ 委	日本学術 振興会
脂肪性肝疾患の肝線維化 におけるB細胞活性化因 子の役割	阿部 雅則	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術 振興会
慢性肝障害および肝発 癌、進展におけるERスト レス、PERKの役割	日浅 陽一	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術 振興会
非平衡大気圧プラズマ(冷 たいプラズマ)を用いたメ ラノーマに対する新規治療 法の開発	白石 研	医学部附属病院	780,000	補○ 委	日本学術 振興会
乾癬の炎症におけるグリコ サミノグリカンの役割の解 明と新規治療法の開発	武藤 潤	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術 振興会
新たな抗体改変技術を利用 したがんに対する革新的 免疫療法の開発研究	越智 俊元	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術 振興会
血小板減少症/血栓性素 因におけるG蛋白質共役 型受容体GPR25の関与と 機能の検討	羽藤 高明	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術 振興会
関節組織再生における関 節リウマチ治療薬の薬理 効果プロファイリング	劉 爽	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術 振興会
Bach2-IL-7経路による Tpath2分化とアレルギー 性気道炎症制御の解明	桑原 誠	医学系研究科	1,690,000	補○ 委	日本学術 振興会
先天性心臓手術における 生体親和性ナノ複合代用 心膜による心膜再生素材 と治療法の開発	打田 俊司	医学部附属病院	1,040,000	補○ 委	日本学術 振興会
軽度外傷性脳損傷におけ るインフラマソームを介し た自然炎症の関与	朱 鵬翔	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術 振興会



二分脊椎異常回路の二光子顕微鏡による立体的解析	松田 正司	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
膠芽腫幹細胞が眠るInvasion nicheの機能解析と幹細胞破綻環境の探索	井上 明宏	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
前十字靭帯再建型人工膝関節の開発:機能解析と最適化	日野 和典	医学系研究科	910,000	補○ 委	日本学術振興会
前立腺癌におけるCUL3型ユビキチンリガーゼによるPSMAの蛋白発現制御機構解析	三浦 徳宣	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
前立腺癌の骨転移分子メカニズム解明に基く革新的治療/予防法の探索	雑賀 隆史	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮がんのリンパ節転移に対する集学的抗転移治療の開発	矢野 元	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
皮膚常在菌及びHMGB1 A-BOXによる難治性皮膚潰瘍に対する新規治療法の開発	森 秀樹	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における転移関連 microRNA の探索	徳善 紀彦	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
MCIscreenおよびSAFを用いた軽度認知障害早期診断の有用性の検討	伊賀瀬 道也	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
皮膚バリア機能と皮膚知覚との関係から考える効果的なスキンケアの検討	佐伯 由香	医学系研究科	650,000	補○ 委	日本学術振興会
散発性アルツハイマー病解明に向けた脳におけるアポE含有リポタンパク代謝経路の解析	藤野 貴広	学術支援センター	910,000	補○ 委	日本学術振興会
ラマン分光法によるがん転移モデルの動態解析と診断・治療への応用	古賀 繁宏	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
マラリア原虫特異的ロブトリー分泌型タンパク質の肝臓感染における役割の解明	馬場 みなみ	プロテオサイエンスセンター	2,470,000	補○ 委	日本学術振興会
エンドソーム局在型ユビキチンE3リガーゼによる血管新生制御の分子機構	前川 大志	プロテオサイエンスセンター	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
ラットによる間歇型一酸化炭素中毒の病態解明及び治療の究明	越智 紳一郎	医学系研究科	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

ユビキチンE3リガーゼ複合体を標的とした乳児血管腫の新規治療薬の探索	手束 真理	医学部附属病院	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
肝硬変患者における腓うっ血からみた肝性糖尿病の機序解明	黒田 太良	医学系研究科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
PKRによる肝細胞癌増殖と代謝分子制御の機序解析および新規治療標的の探索	渡辺 崇夫	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
膵癌におけるインフラマソームおよびASCの役割と癌進展との関連	小泉 光仁	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
効果的な大腸癌治療を志向した新規抗血管新生医薬品のシーズ化合物の探索	谷川 和史	医学部附属病院	2,470,000	補○ 委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症の治療標的分子の同定および治療薬の開発について	浪口 謙治	医学部附属病院	2,340,000	補○ 委	日本学術振興会
骨格筋内AMP活性化酵素は敗血症予後と関連するか	菊池 聡	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
革新的受容体合成技術を利用した新規核酸医薬品(アナフィラキシー予防薬)の開発	鈴木 康之	医学部	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
脳梗塞マイクログリアの網羅的機能解析:そのダイナミクスと治療応用	松本 調	医学部附属病院	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
真珠腫の術中蛍光診断の開発に課する研究	阿部 康範	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
眼表面摩擦係数測定機の開発と眼表面疾患診断における有用性の検討	坂根 由梨	医学部	910,000	補○ 委	日本学術振興会
しびれ評価のためのアセスメントツール開発に向けた基礎的研究	赤松 公子	医学系研究科	130,000	補○ 委	日本学術振興会
マラリア原虫分子LISP2は宿主細胞核に移行後どのように宿主細胞を制御するのか?	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	2,860,000	補○ 委	日本学術振興会
無染色イメージング技術を基盤とする軟骨変性疾患の病態解析と臨床応用展開	清松 悠	医学部附属病院	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
構造プロテオミクスのための高効率ゲル内タンパク質回収法の開発	武森 信暁	学術支援センター	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

老人性骨粗鬆症の病態解析:加齢モデルにおける破骨細胞分化因子発現制御	北澤 理子	医学部附属病院	2,470,000	補○ 委	日本学術振興会
2型糖尿病原因遺伝子レジスチンを標的とした遺伝子環境因子相互作用メカニズムの解明	川村 良一	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒト臨床検体を用いた大動脈弁狭窄症の分子機序・血中病態予測マーカーの探索	青野 潤	医学部附属病院	2,210,000	補○ 委	日本学術振興会
培養脂腺細胞の分泌膜小胞セボゾームの生成と周辺細胞への脂質供給機構	永井 彩子	医学部附属病院	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
慢性皮膚炎症に伴う細胞老化における代謝とエピゲノム変化の役割	大森 深雪	医学系研究科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
GPR25遺伝子による血小板減少性血栓性素因を呈する疾患病態の解明	山之内 純	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
MLL遺伝子再構成陽性乳児ALLに対するFLT3を標的とした分子標的療法の開発	永井 功造	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
小児白血病の発症プロセスに基づく発症・再発予防法開発への基礎研究	江口 真理子	医学系研究科	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
寛容型樹状細胞を用いた自己免疫疾患治療の実用化に向けた研究	長谷川 均	医学系研究科	2,600,000	補○ 委	日本学術振興会
Rabによるオートファジーを介したアレルギー性気道炎症の慢性化機序の解明	鈴木 淳平	医学系研究科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
我が国における重症熱性血小板減少症候群の臨床的特徴と病態の解析	末盛 浩一郎	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
肝移植後虚血性胆管障害に対する治療戦略	小川 晃平	医学系研究科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
大腸がん特異的タンパク質代謝マーカーの探索・同定と臨床応用	渡部 祐司	医学系研究科	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
ユビキチンリガーゼを標的とした肺虚血再灌流障害制御法の開発と臨床応用	杉本 龍士郎	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
軽度外傷性脳損傷に対するジンセンノサイドRb1と誘導体の治療効果に関する研究	阪中 雅広	医学部	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

一酸化炭素中毒後遅発性脳症に対する神経栄養因子の投与による治療効果の検討	西原 佑	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の病態形成に対するトロホブラスト由来exosomeの関与	松原 圭一	医学系研究科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
臓器間ネットワークの視点よりみた妊娠時インスリン抵抗性の病態生理学的検討	杉山 隆	医学系研究科	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
ユビキチンE3複合体を標的とした血管奇形の新規治療戦略の創出	中岡 啓喜	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
Investigation of chromatin remodeling in osteoclast function for therapeutic targeting of bone remodeling balance	李 智媛	プロテオサイエンスセンター	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
リンパ節転移診断遺伝子アルゴリズムの構築による口腔癌リンパ節転移予測の確立	合田 啓之	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
フラッシュグルコースモニタリングシステムを活用した小児糖尿病患者への自己管理支援	薬師神 裕子	医学系研究科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
小児1型糖尿病患者と家族の成人型医療への円滑な移行を促進するガイドラインの開発	野本 美佳	医学系研究科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
療養病床における経管栄養を受ける高齢者の排便ケアに関する包括的質評価指標の開発	小岡 亜希子	医学系研究科	780,000	補○ 委	日本学術振興会
在宅要介護高齢者のアセスメントに基づいた在宅排尿ケアプログラムの構築	田中 久美子	医学系研究科	130,000	補○ 委	日本学術振興会
コレステロール摂取が非アルコール性脂肪肝の進展と発癌に及ぼす影響とその機序の解明	三宅 映己	医学部附属病院	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
生体イメージングと数理を融合した表現型解析に基づく遺伝疾患解明へのアプローチ	齋藤 卓	医学系研究科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
幹細胞から成熟赤血球製造効率の向上に向けた赤芽球脱核現象の制御研究	満田 憲昭	医学系研究科	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
滑膜細胞のエピゲノム調節による炎症性サイトカイン発現制御機構の解明	佐伯 法学	学術支援センター	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
ビッグデータ解析を応用した乳癌化生癌に対する新規治療標的分子の同定	山下 美智子	医学部附属病院	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会

TREM2遺伝子のエピジェネティクス変化による精神神経疾患のバイオマーカー同定	尾崎 優樹	医学系研究科	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
NASHにおけるPKRを介した肝星細胞の活性化と肝細胞癌進展機序の解明	今井 祐輔	医学系研究科	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
ヒト炭酸脱水酵素Iを用いた炎症性腸疾患に対する経口免疫療法の開発	八木 専	医学系研究科	2,080,000	補○ 委	日本学術振興会
睡眠障害を来した心不全におけるメラトニン誘導性オートファジーの機能解明	高橋 佳世	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
micro-RNAに着目したがん関連血栓症の病態解明と先制医療への展開	東 晴彦	医学部附属病院	1,430,000	補○ 委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症における石灰化関連因子の機能解析	濱口 美香	医学部附属病院	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
創傷治癒におけるヒアルロン酸の役割の解明	難波 千佳	医学部附属病院	1,690,000	補○ 委	日本学術振興会
三次元培養皮膚を用いた乾燥状態皮膚モデルの作成	宇都宮 亮	医学系研究科	1,820,000	補○ 委	日本学術振興会
細胞膜形態制御機構を標的とした新規HER2陽性乳癌治療薬の導出	村上 朱里	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
CUL3型ユビキチンE3複合体による新規増殖シグナル制御の解明と乳癌治療への応用	西山 加那子	医学部附属病院	1,560,000	補○ 委	日本学術振興会
敗血症における免疫不全の原因は制御性B細胞か?: PD-L1発現との関連	松本 紘典	医学系研究科	1,170,000	補○ 委	日本学術振興会
脳梗塞・脳出血後の血液中monocyteの変化と重症度の関係	阿部 尚紀	医学部附属病院	1,300,000	補○ 委	日本学術振興会
エストロゲン欠乏による骨折治癒遷延の分子メカニズム解明と治癒促進法の開発	池戸 葵	プロテオサイエンスセンター	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会
マクロファージが産生するEmilin2の骨代謝における機能解明と臨床応用の可能性	小原 幸弘	医学系研究科	1,040,000	補○ 委	日本学術振興会
前立腺癌原因遺伝子ETV1のタンパク質分解機構解析と前立腺癌治療への応用	渡辺 隆太	医学部附属病院	1,950,000	補○ 委	日本学術振興会

小計15件

慢性内耳虚血の病態解明 および治療法開発	岡田 昌浩	医学部附属病院	1,820,000	補 委	日本学術 振興会
統合的解析を駆使したア ンドロゲンによる骨格筋制 御メカニズムの解明	酒井 大史	プロテオサイエンスセ ンター	1,950,000	補 委	日本学術 振興会
microRNAによる劣化メカ ニズム制御と血液脳関門 保護による抗認知症療法 の構築	外山 研介	医学系研究科	1,430,000	補 委	日本学術 振興会
血管超音波を用いた神経 疾患の血管内皮機能に関 する解析	岡田 陽子	医学部附属病院	1,560,000	補 委	日本学術 振興会
疾患特異的タンパク質の 分解誘導システムの開発・ 応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセ ンター	3,900,000	補 委	日本学術 振興会
三日熱マalaria伝搬阻止 効果のある患者血漿を用 いた新規ワクチン候補抗 原の探索	石野 智子	プロテオサイエンスセ ンター	2,080,000	補 委	日本学術 振興会
ブロック拠点病院のない自 治体における中核拠点病 院の機能評価と体制整備 のための研究	高田 清式	医学部附属病院	11,700,000	補 委	厚生労働 省
小児慢性特定疾病児童等 自立支援事業の発展に資 する研究	檜垣 高史	大学院医学系研究科	12,000,000	補 委	厚生労働 省
核酸アナログ離脱を目的と するB型肝炎ウイルスに対 する免疫治療法の開発	日浅 陽一	大学院医学研究科	109,490,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
変異SPOP システムを標的 とした新規前立腺がん治 療薬の開発	東山 繁樹	プロテオサイエンスセ ンター	6,500,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
高分化能を保有する新型 ヒトiPS細胞T-iPS細胞の有 用性実証研究	加藤 英政	大学院医学研究科	18,500,000	補 委	日本医療 研究開発 機構
高齢中高度難聴者のQOL を改善する革新的骨導補 聴デバイスの開発	羽藤 直人	大学院医学研究科	6,886,880	補 委	日本医療 研究開発 機構

計 160

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kukida M, Mogi M, Kan-No H, et al.	医化学・細胞生物学	AT2 receptor stimulation inhibits phosphate-induced vascular calcification	Kidney Int. 95:138-148. doi: 10.1016/j.kint.2018.07.028	Original Article
2	Sekiya H, Kowa H, Koga H, et al.	医化学・細胞生物学	Wide distribution of alpha-synuclein oligomers in multiple system atrophy brain detected by proximity ligation	Acta Neuropathol. 137:433-460. doi: 10.1007/s00401-019-01961-1	Original Article
3	Sugawara Y, Hamada K, Yamada Y, et al.	医化学・細胞生物学	Characterization of dystroglycan binding in adhesion of human induced pluripotent stem cells to laminin-511 E8 fragment	Sci Rep. 9:13037. doi: 10.1038/s41598-019-49669-x	Original Article
4	Ujihara Y, Kanagawa M, Mohri S, et al.	医化学・細胞生物学	muscular dystrophy-associated heart failure	Nat Commun. 10:5754. doi: 10.1038/s41467-019-13623-2	Original Article
5	Koji Kinoshita, Takuya Munesue, Fujio Toki, et al.	生化学・分子遺伝学	Automated Collective Motion Analysis Validates Human Keratinocyte Stem Cell Cultures	Sci Rep. 2019 Dec 10;9(1):18725. doi: 10.1038/s41598-019-55270-4	Original Article
6	Masashi Maekawa, Hiromi Hiyoshi, Jun Nakayama, et al.	生化学・分子遺伝学	Cullin-3/KCTD10 Complex Is Essential for K27-polyubiquitination of EIF3D in Human Hepatocellular Carcinoma HepG2 Cells	Biochem Biophys Res Commun. 2019 Sep 3;516(4):1116-1122. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.07.010.	Original Article
7	Shigeki Higashiyama, Kunikazu Tanji, Susumu Mitsuake, et al.	生化学・分子遺伝学	Konjac Ceramide (kCer) Regulates Keratinocyte Migration by Sema3A-like Repulsion Mechanism	Biochem Biophys Res. 2019 Jan 3;17:132-138. doi: 10.1016/j.bbrep.2018.11.004.	Original Article
8	Hana Takahashi, Shigeki Higashiyama, Hideyuki Yamamoto, et al.	生化学・分子遺伝学	Activation of Pyk2 by CaM Kinase II in Cultured Hypothalamic Neurons and Gonadotroph Cells	J Cell Physiol. 2019 May;234(5):6865-6875. doi: 10.1002/jcp.27443. Epub 2018 Nov 11.	Original Article
9	Naoki Abe, Hajime Yano, Toshihiro Yorozuya, Junya Tanaka, et al.	分子細胞整理学	Aggravating effects of treadmill exercises during the early-onset period in a rat traumatic brain injury model: When should rehabilitation exercises be initiated?	IBRO Rep 7 (2019) 82-89; https://doi.org/10.1016/j.ibror.2019.10.002	Original Article
10	Kazuya Miyaniishi, Mohammed E. Choudhury, Minoru Watanabe, et al.	分子細胞整理学	Behavioral tests predicting striatal dopamine level in a rat hemi-Parkinson's disease model	Neurochem Int. 122 (2019) 38-46; https://doi.org/10.1016/j.neuint.2018.11.005	Original Article
11	Yuta Nakai, Kazuo Okamoto, Asuka Terashima, et al.	分子病態医学	Efficacy of an orally active small-molecule inhibitor of RANKL in bone metastasis	Bone Res. 2019; 7: 1. Published online 2019 Jan 3. doi: 10.1038/s41413-018-0036-5	Original Article
12	Masatoshi Inoue, Atsuya Takeuchi, Satoshi Manita, et al.	分子病態医学	Rational Engineering of XCaMPs, a Multicolor GECI Suite for In Vivo Imaging of Complex Brain Circuit Dynamics	Cell. 2019 May 16;177(5):1346-1360.e24.	Original Article
13	Takeshi Ieda, Hiroshi Tazawa, Hiroki Okabayashi, et al.	分子病態医学	Visualization of epithelial-mesenchymal transition in an inflammatory microenvironment-colorectal cancer network	Sci Rep. 2019; 9: 16378. Published online 2019 Nov 8. doi: 10.1038/s41598-019-52816-7	Original Article
14	Keiko Usui, Nanako Kadono, Yuki Furuichi, et al.	分子病態医学	3D in vivo imaging of the keratin filament network in the mouse stratum granulosum reveals proflaggrin-dependent regulation of keratin bundling	Journal of Dermatological Science 94:346-349, 2019 DOI: 10.1016/j.jdermsci.2019.04.006	Original Article
15	Ikeda Y, Yamanouchi J, Hato T, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Safe childbirth for a type 1 antithrombin-deficient woman with novel mutation in the SERPINC1 gene undergoing antithrombin concentrate therapy.	Blood Coagul Fibrinolysis 30(1): 47-51	Original Article
16	Maruta M, Ochi T, Tanimoto K, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Direct comparison of target-reactivity and cross-reactivity induced by CAR- and BiTE-redirected T cells for the development of antibody-based T-cell therapy	Sci Rep 9(1): 13293	Original Article
17	Mori Y, Yoshimoto G, Yuda JI, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Previous exposure to bortezomib is linked to a lower risk of engraftment syndrome after autologous hematopoietic stem cell transplantation.	Leuk Lymphoma 60(1): 271-273	Original Article
18	Okada M, Suemori K, Takagi D, et al.	血液・免疫・感染症内科学	The treatment outcomes of rituximab for intractable otitis media with ANCA-associated vasculitis.	Auris Nasus Larynx 46(1): 38-42	Original Article
19	Nakano Mm, Kikushige Y, Miyawaki K, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Dedifferentiation process driven by TGF-beta signaling enhances stem cell properties in human colorectal cancer.	Oncogene 38(6): 780-793	Original Article
20	Inagaki Y, Maruta M, Nakano Y, Higuchi J, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Preventability of Early Versus Late Hospital Readmissions.	Ann Intern Med 170(3): 217-218	Original Article
21	Komatsu K, Kinai E, Sakamoto M, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Various associations of aging and long-term HIV infection with different neurocognitive functions: detailed analysis of a Japanese nationwide multicenter study.	J Neurovirol 25(2): 208-220	Original Article
22	Murata M, Takenaka K, Uchida N, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Comparison of outcomes of allogeneic transplantation for Primary Myelofibrosis among Hematopoietic Stem Cell Source	Biol Blood Marrow Transplant 25(8): 1536-1543	Original Article
23	Minami M, Matsushima T, Mori Y, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Successful rescue transplantation with desensitization procedure after primary graft failure due to donor-specific antibody.	Bone Marrow Transplant 54(8): 1374-1376	Original Article
24	Elbadry MI, Mizumaki H, Hosokawa K, et al.	血液・免疫・感染症内科学	Escape hematopoiesis by HLA-B5401-lacking hematopoietic stem progenitor cells in men with acquired aplastic anemia.	Haematologica 104(10): e447-e450	Original Article
25	Ueno R, Nishimura S, Fujimoto G, et al.	血液・免疫・感染症内科学	The clinical and economic burden of cytomegalovirus management post allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in Japan - a retrospective database study.	Curr Med Res Opin 35(12): 2089-2096	Original Article
26	Eguchi-Ishimae M, Tezuka M, Kokeguchi T, et al.	小児科学	Early detection of the PAX3-FOXO1 fusion gene in circulating tumor-derived DNA in a case of alveolar rhabdomyosarcoma.	Genes Chromosomes Cancer 58: 521-529(IF:2.940)	Original Article
27	Okamoto K, Fukuda M, Saito I, et al.	小児科学	Incidence of infantile spinal muscular atrophy on Shikoku Island of Japan.	Brain Development 41(1),36-42(IF:1.756)	Original Article
28	Konishi KI, Mizuuchi T, Yanagi T, et al.	小児科学	Clinical Features, Molecular Genetics, and Long-Term Outcome in Congenital Chloride Diarrhea: A Nationwide Study in Japan.	Journal of Pediatrics 214, 151-157(IF:3.739)	Original Article
29	Sekiguchi F, Tsurusaki Y, Okamoto N, et al.	小児科学	Genetic abnormalities in a large cohort of Coffin-Siris syndrome patients.	Journal of Human Genetics 64,1173-1186.(IF:3.545)	Original Article

小計29件

30	Kawabe K, Horiuchi F, Miyama T, et al.	小児科学	Internet addiction and attention-deficit/hyperactivity disorder symptoms in adolescents with autism spectrum disorder.	Research In Developmental Disabilities 89: 22-28(IF:1.872)	Original Article
31	Hamada H, Suzuki H, Onouchi Y, et al.	小児科学	Efficacy of primary treatment with immunoglobulin plus ciclosporin for prevention of coronary artery abnormalities in patients with Kawasaki disease predicted to be at increased risk of non-response to intravenous immunoglobulin (KAICA): a randomised controlled, open-label, blinded-endpoints, phase 3 trial.	Lancet. 2019 Mar 16;393(10176):1128-1137. (IF 43.380)	Original Article
32	Tauchi H, Yahagi K, Yamauchi T, et al.	小児科学	Gut microbiota development of preterm infants hospitalised in intensive care units.	Beneficial Microbes.10(6):641-651(IF:2.939)	Original Article
33	Mitani Y, Tsuda E, Kato H, et al.	小児科学	Emergence and Characterization of Acute Coronary Syndrome in Adults After Confirmed or Missed History of Kawasaki Disease in Japan: A Japanese Nationwide Survey.	Frontiers in Pediatrics. 2019 Jul 9;7:275(IF:2.460)	Original Article
34	Manami Mizumoto, Fumihiro Ochi, Toshihiro Jogamoto, et al.	小児科学	Nonocclusive mesenteric ischemia rescued by immediate surgical exploration in a boy with severe neurodevelopmental disability.	Case Reports in Pediatrics, Vol.2019, Article ID 5354074(IF:0.330)	Original Article
35	Kawabata, Y., Nishida, N., Awata, T., et al.	糖尿病内科学	Genome-wide association study confirming a strong effect of HLA and identifying variants in CSAD/Inc-ITGB7-1 on chromosome 12q13.13 associated with susceptibility to dominant type 1 diabetes	Diabetes 68: 665-675, 2019.	Original Article
36	Goto, R., Tanigawa, T., Maruyama, K., et al.	糖尿病内科学	Associations of snoring frequency with blood pressure among the lean Japanese population: The Toon Health Study.	J Hum Hypertens. 2019 Jan 8. doi: 10.1038/s41371-018-0148-9	Original Article
37	Nishioka, S., Maruyama, K., Tanigawa, T., et al.	糖尿病内科学	Effect of non-surgical periodontal therapy on insulin resistance and insulin sensitivity among individuals with borderline diabetes: A randomized controlled trial.	J Dent. 2019 Jun;85:18-24. doi:10.1016/j.jdent.2019.04.005. Epub 2019 Apr 12. PMID: 30986519	Original Article
38	Sugimoto, K., Tabara, Y., Ikegami, H., et al.	糖尿病内科学	Hyperglycemia in non-obese patients with type 2 diabetes is associated with low muscle mass: The Multicenter Study for Clarifying Evidence for Sarcopenia in Patients with Diabetes Mellitus.	J Diabetes Investig. 2019 Nov;10(6):1471-1479. doi: 10.1111/jdi.13070. Epub 2019 Jun 1.	Original Article
39	Matsushita, Y., Takata, Y., Kawamura, R., et al.	糖尿病内科学	The fluctuation in sympathetic nerve activity around wake-up time was positively associated with not only morning but also daily glyceic variability in subjects with type 2 diabetes.	Diabetes Res Clin Pract. 2019 Jun;152:1-8. doi: 10.1016/j.diabres.2019.04.029. Epub 2019 May 9.	Original Article
40	Takaesu Y, Watanabe K, Numata S, et al.	精神神経科学	Improvement of psychiatrists' clinical knowledge of the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study.	Psychiatry Clin Neurosci 73:642-648,2019	Original Article
41	Funahashi Y, Yoshino Y, Yamazaki K, et al.	精神神経科学	Analysis of methylation and -141C ins/Dei polymorphisms of the dopamine receptor D2 gene in patients with schizophrenia.	Psychiatry Res 278:135-140,2019.	Original Article
42	Nakata S, Yoshino Y, Okita M, et al.	精神神経科学	Differential expression of the gliem-related miRNAs GHS-R1a, GHS-R1b, and MBOAT4 in Japanese patients with schizophrenia.	Psychiatry Res 272:334-339,2019	Original Article
43	Ogawa K, Kaido T, Okajima H, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Impact of pretreatments on outcomes after living donor liver transplantation for hepatocellular carcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2019;26(2):73-81. doi:10.1002/jhbp.602	Original Article
44	Sakamoto K, Ogawa K, Tohyama T, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Serosal invasion is a strong prognostic factor for hepatocellular carcinoma after hepatectomy.	Hepatol Res 2019;49(4):419-431. doi:10.1111/hepr.13285	Original Article
45	Sakamoto K, Takai A, Ueno Y, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Scoring system to predict pT2 in gallbladder cancer based on carcinoembryonic antigen and tumor diameter.	Scand J Surg 2019;1457496919866016. doi:10.1177/1457496919866016	Original Article
46	Ito E, Takai A, Imai Y, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Quality of life after single-incision laparoscopic cholecystectomy: A randomized, clinical trial.	Surgery 2019;165(2):353-359.	Original Article
47	Tamura K, Tohyama T, Watanabe J, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Prefomed donor-specific antibodies are associated with 90-day mortality in living-donor liver transplantation.	Hepatol Res 2019;49(8):929-941. doi:10.1111/hepr.13352	Original Article
48	Murakami A, Maekawa M, Kawai K, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Cullin-3/KCTD10 E3 complex is essential for Rac1 activation through RhoB degradation in human epidermal growth factor receptor 2-positive breast cancer cells.	Cancer Sci 2019;110(2):650-661. doi:10.1111/cas.13899	Original Article
49	Kotera Y, Egawa H, Ogata S, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Current status of hepatopulmonary syndrome in liver transplantation in Japan: A Japanese multicenter analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2019;26(7):292-299. doi:10.1002/jhbp.632	Original Article
50	Umehita K, Eguchi S, Egawa H, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Liver transplantation in Japan: Registry by the Japanese Liver Transplantation Society.	Hepatol Res 2019;49(9):964-980. doi:10.1111/hepr.13364. Epub 2019 July 18	Original Article
51	Uemura J, Okano K, Oshima M, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Immunohistochemically detected expression of ATRX, TSC2, and PTEN predicts clinical outcomes in patients with grade 1 and 2 pancreatic neuroendocrine tumors.	Ann Surg 2019 Oct 9. doi: 10.1097/SLA.0000000000003624	Original Article
52	Muto J, Sayama K, Gallo RL, et al.	皮膚科学	Emerging evidence for the essential role of hyaluronan in cutaneous biology.	J Dermatol Sci. 2019 Apr;94(1):190-195. doi: 10.1016/j.jdermsci.2019.01.009. Epub 2019 Mar 19.	Original Article
53	Masuda-Kuroki K, Murakami M, Kishibe M, et al.	皮膚科学	Diagnostic histopathological features distinguishing palmoplantar pustulosis from pompholyx	J. of Dermatol.;46(5):399-408, May 2019	Original Article
54	Shiraishi K, Sadamoto Y, Sayama K.	皮膚科学	Heerfordt syndrome developing in a patient with cutaneous sarcoidosis.	Australas J Dermatol.; 60(3): 240-241, Aug. 2019	Original Article
55	Terui T, Kobayashi S, Okubo Y, et al.	皮膚科学	Efficacy and safety of guselkumab in Japanese patients with palmoplantar pustulosis: A phase 3, randomized, double-blind, placebo-controlled study.	JAMA Dermatol.; 155(10): 1153-1161. Oct. 2019	Original Article
56	Murakami M, Muto J, Masuda-Kuroki K, et al.	皮膚科学	Pompholyx vesicles contain small clusters of cells with high levels of hyaluronate resembling the pustulovesicles of palmoplantar pustulosis.	Br J Dermatol.; 181(6): 1325-1327. Dec. 2019	Original Article
57	Okada T, Hasegawa S, Nakamura T, et al.	解剖学・発生学	Precise three-dimensional morphology of the male anterior anorectum reconstructed from large serial histological sections: a cadaveric study.	Diseases of the Colon & Rectum 62(10):1238-1247	Original Article
58	Nakamura T, Shinohara H, Okada T, et al.	解剖学・発生学	Revisiting the Intrahepatic Bursa Using Multimodal Methods: Topographic Anatomy for Surgery of the Esophagogastric Junction	J Anat. 2019 235(1):88-95.	Original Article
59	Al-Mahtab M, Rahim MA, Noor-E-Alam SM, et al.	解剖学・発生学	Treatment by Transarterial Chemoembolization and Sorafenib for Hepatocellular Carcinoma vs Advanced Hepatocellular Carcinoma in Bangladesh: A Real-life Situation.	Euroasian Journal of Hepato-gastroenterology 2019, 9 (2): 57-62.	Original Article



60	Choudhury N, Quraishi SB, Atiqullah AKM, et al.	解剖学・発生学	High Prevalence of Wilson's Diseases with Low Prevalence of Kayser-Fleischer Rings among Patients with Cryptogenic Chronic Liver Diseases in Bangladesh.	Euroasian Journal of Hepato-gastroenterology 2019, 9 (2): 67-70.	Original Article
61	Tachibana T, Hirai M, Tomita A, et al.	解剖学・発生学	Physiological responses to central and peripheral injections of compound 48/80 and histamine in chicks.	Physiology & Behavior 2019, 211: 112681.	Original Article
62	Tachibana T, Ueoka W, Khan MSI, et al.	解剖学・発生学	Compound 48/80 reduces the crop-emptying rate, likely through a histamine-associated pathway in chicks.	Domestic Animal Endocrinology 2019, 66: 57-63.	Original Article
63	Tachibana T, Ishimaru Y, Takeda K, et al.	解剖学・発生学	Physiological responses to central and peripheral injection of polyinosinic-polycytidylic acid in chicks.	British Poultry Science 2019, 60: 64-70.	Original Article
64	Kondo S, Kato H, Suzuki Y, et al.	機能組織学	Monoallelic, antisense, and total RNA transcription in an in vitro neural differentiation system based on F1-hybrid mice.	J Cell Sci. 2019 Sep 9;132(17). pii: jcs.228973. doi: 10.1242/jcs.228973. PMID: 31406693	Original Article
65	Takekoshi D, Tokuzawa Y, Sakanaka M, et al.	機能組織学	The N-end rule pathway enzyme Naa10 supports epiblast specification in mouse embryonic stem cells by modulating FGF/MAPK.	In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2019 May;55(5):355-367. doi: 10.1007/s11626-019-00341-8. PMID: 30993557	Original Article
66	Ohkubo N, Aoto M, Kon K, et al.	循環生理学	Lack of Zinc Finger Protein 521 Upregulates Dopamine $\beta$ -hydroxylase Expression in the Mouse Brain, Leading to Abnormal Behavior.	Life Sci 231:116559	Original Article
67	Aoto M, Iwashita A, Mita K, et al.	循環生理学	Transferrin Receptor 1 Is Required for Enucleation of Mouse Erythroblasts During Terminal Differentiation.	FEBS Open Bio 9: 291-303	Original Article
68	Yamamoto M, Motomura E, Yanagisawa R, et al.	薬理学	Evaluation of neurobehavioral impairment in methylmercury-treated KK-Ay mice by dynamic weight-bearing test.	J Appl Toxicol 39: 221-230	Original Article
69	Slamet Soetanto T, Liu S, Sahid MNA, Toyama K, et al.	薬理学	Histamine uptake mediated by plasma membrane monoamine transporter and organic cation transporters in rat mast cell lines.	Eur J Pharmacol 849: 75-83	Original Article
70	Kiyoi T, Liu S, Sahid MNA, et al.	薬理学	Morphological and functional analysis of beige (Chédiak-Higashi syndrome) mouse mast cells with giant granules.	Int Immunopharmacol 69 :202-212	Original Article
71	Liu S, Takahashi M, Kiyoi T, et al.	薬理学	Genetic Manipulation of Calcium Release-Activated Calcium Channel 1 Modulates the Multipotency of Human Cartilage-Derived Mesenchymal Stem Cells.	J Immunol Res 2019: 7510214	Original Article
72	Toyama K, Spin JM, Abe Y, et al.	薬理学	Controlled isoflurane anesthesia exposure is required for reliable behavioral testing in murine surgical models.	J Pharmacol Sci 140: 106-108	Original Article
73	Nozato S, Yamamoto K, Takeshita H, et al.	薬理学	Angiotensin 1-7 alleviates aging-associated muscle weakness and bone loss, but is not associated with accelerated aging in ACE2-knockout mice.	Clin Sci (Lond) 133: 2005-2018	Original Article
74	Kojima A, Sakaue T, Okazaki M, et al.	病態生理学	A simple mouse model of pericardial adhesions	J Cardiothorac Surg. 2019 Jun 28;14(1):124. doi: 10.1186/s13019-019-0940-9.	Original Article
75	Yamada T, Nabe S, Toriyama K, et al.	病態生理学	Histone H3K27 Demethylase Negatively Controls the Memory Formation of Antigen-Stimulated CD8+ T Cells	J Immunol. 2019 Feb 15;202(4):1088-1098. doi: 10.4049/jimmunol.1801083. Epub 2019 Jan 9.	Original Article
76	Ikeda A, Kido K, Ato S, et al.	病態生理学	The effects of resistance training on bone mineral density and bone quality in type 2 diabetic rats	Physiol Rep. 2019 Mar; 7(6). e14046. doi:10.14814/phyz.2019.14046	Original Article
77	Yanagihara Y, Inoue K, Saeki N, et al.	病態生理学	Zscan10 Suppresses Osteoclast Differentiation by Regulating Expression of Haptoglobin	Bone. 2019 May;122:93-100. doi: 10.1016/j.bone.2019.02.011. Epub 2019 Feb 13.	Original Article
78	Uematsu A, Kido K, Takahashi H, et al.	病態生理学	The E3 ubiquitin ligase MIB2 enhances inflammation by degrading the deubiquitinating enzyme CYLD	J Biol Chem. 2019 Sep 20;294(38):14135-14148. doi: 10.1074/jbc.RA119.010119. Epub 2019 Jul 31.	Original Article
79	Ono Y, Miyakoshi N, Kasukawa Y, et al.	病態生理学	Micro-CT imaging analysis for the effects of ibandronate and eldelcalcitol on secondary osteoporosis and arthritis in adjuvant-induced arthritis rats	Biomed Res. 2019;40(5):197-205. doi: 10.2220/biomedres.40.197.	Original Article
80	Hayashi K, Suzuki A, Terai H, et al.	病態生理学	Fibroblast Growth Factor 9 Is Upregulated Upon Intervertebral Mechanical Stress-Induced Ligamentum Flavum Hypertrophy in a Rabbit Model	Spine. 2019 Oct 15;44(20):E1172-E1180. doi: 10.1097/BRS.00000000000003089	Original Article
81	Haraguchi R, Kitazawa R, Kohara Y, et al.	病態生理学	Recent Insights into Long Bone Development: Central Role of Hedgehog Signaling Pathway in Regulating Growth Plate	Int J Mol Sci. 2019 Nov 20;20(23):5840. doi: 10.3390/ijms20235840.	Original Article
82	Suehiro C, Suzuki J, Hamaguchi M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Deletion of interleukin-18 attenuates abdominal aortic aneurysm formation.	Atherosclerosis 2019;289:14-20.	Original Article
83	Sakaue T, Hamaguchi M, Aono J, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Valve interstitial cell-specific cyclooxygenase-1 associated with calcification of aortic valves	Ann Thorac Surg 2019 Nov 22. pii: S0003-4975(19)31717-5.	Original Article
84	Fujii A, Tanigawa S, Nakamura T, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Infusion Needle Radiofrequency Ablation for Treatment of Refractory Ventricular Arrhythmias.	J Am Coll Cardiol. 2019;73:1413-1425.	Original Article
85	Inoue K, Asanuma T, Masuda K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Assessment of Left Atrial Work During Acute Coronary Occlusion.	Ultrasound Med Biol 2019;45:749-757.	Original Article
86	Ueda H, Yamaguchi O, Taneike M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Administration of a TLR9 Inhibitor Attenuates the Development and Progression of Heart Failure in Mice.	JACC Basic Transl Sci. 2019;4:348-363.	Original Article
87	Misaka T, Nishida K, Yamaguchi O, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Ablation of Toll-like receptor 9 attenuates myocardial ischemia/reperfusion injury in mice.	Biochem Biophys Res Commun. 2019;515:442-447.	Original Article
88	Taneike M, Yamaguchi O, Otsu K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	A Mammalian Mitophagy Receptor, Bcl2-L-13, Recruits the ULK1 Complex to Induce Mitophagy.	Cell Rep. 2019;26:338-345.	Original Article
89	Kawakami H, Yang H, Negishi K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Left Atrial Mechanical Dispersion Assessed by Strain Echocardiography as an Independent Predictor of New-Onset Atrial Fibrillation: A Case-Control Study.	J Am Soc Echocardiogr 2019;10:1268-1276.	Original Article
90	Tanabe Y, Kido T, Kurata A, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Impact of Knowledge-Based Iterative Model Reconstruction on Image Quality and Hemodynamic Parameters in Dynamic Myocardial Computed Tomography Perfusion Using Low-Tube-Voltage Scan: A Feasibility Study.	J Comput Assist Tomogr 2019;43:811-816.	Original Article
91	Yokoi T, Tanabe Y, Kido T, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Impact of the sampling rate of dynamic myocardial computed tomography perfusion on the quantitative assessment of myocardial blood flow.	Clin Imaging 2019;56:93-101.	Original Article
92	Nishiyama H, Tanabe Y, Kido T, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Incremental diagnostic value of whole-heart dynamic computed tomography perfusion imaging for detecting obstructive coronary artery disease.	J Cardiol 2019;73:425-431.	Original Article

小計33件

93	Yokoyama J, Yoshioka D, Toda K, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Surgery—first treatment improves clinical results in infective endocarditis complicated with disseminated intravascular coagulation.	Eur J Cardiothorac Surg. 2019 Oct 1;56(4):785–792. doi:10.1093/ejcts/ezz068.	Original Article
94	OGAWA D, Kobayashi S, Yamazaki K, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Mathematical evaluation of cardiac beat synchronization control used for a rotary blood pump.	J Artif Organs. 2019 Dec;22(4):276–285. doi:10.1007/s10047-019-01117-3 Epub 2019 Jul 20.	Original Article
95	Shimamura J, Nishimura T, Mizuno T, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Interventricular dyssynchrony during continuous-flow left ventricular assist device support: observation using the conductance method.	J Artif Organs. 2019 Dec;22(4):348–352. doi:10.1007/s10047-019-01115-5 Epub 2019 Jul 2.	Original Article
96	Shimamura J, Nishimura T, Mizuno T, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Quantification of interventricular dyssynchrony during continuous-flow left ventricular assist device support.	J Artif Organs. 2019 Dec;22(4):26–275. doi:10.1007/s10047-019-01109-3 Epub 2019 Jun 15.	Original Article
97	Shimamura J, Mizuno T, Takewa Y, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Miniaturized centrifugal ventricular assist device for bridge to decision: Preclinical chronic study in a bovine model.	J Artif Organs. 2019 Sep;43(9):821–827. doi:10.1111/aor.13459. Epub 2019 Apr 25.	Original Article
98	Ueno T, Maki Y, Sugimoto R, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Therapeutic Outcomes of 15 Postoperative Bronchopleural Fistulas Including Seven Endoscopic Interventions	Acta Med Okayama, 2019 Aug; 73 (4) 325–331. doi:10.18926/AMO/56934.	Original Article
99	Bächinger D, Takagi D, Yamada H, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Japanese translation, cross-cultural adaption and multicentre validation of the Zurich chronic middle ear inventory (ZCMEI-21-Jap)	Auris Nasus Larynx	Original Article
100	Takagi D, Shinohara N, Nishida N, Matsui S.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	A transnasal foreign body penetrating the spinal cord from the nasopharynx.	Auris Nasus Larynx.	Original Article
101	Masahiro Okada, Amy Quinkert, Kevin H. et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	The natural progression of low-frequency hearing loss in patients who meet hybrid implant system candidacy criteria.	Laryngoscope	Original Article
102	Okada M, Welling DB, Liberman MC, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Chronic Conductive Hearing Loss Is Associated With Speech Intelligibility Deficits in Patients With Normal Bone Conduction Thresholds.	Ear Hear	Original Article
103	Imai H, Takeba J, Maruishi A, et al.	整形外科	Computer-assisted anteverting eccentric rotational acetabular osteotomy for recurrent posterior dislocation associated with acetabular retroversion: A case report	Journal of Medical Case Reports. 13(1) 4–11 2019	Original Article
104	Imai H, Takeba J, Maruishi A, et al.	整形外科	Radiolucency around Highly Porous Sockets and Hydroxyapatite-Coated Porous Sockets in Cementless Total Hip Arthroplasty for Hip Dysplasia	Eur J Orthop Surg Traumatol 29(3) 611–618 2019	Original Article
105	Hino K, Shiraishi Y, Nishimatsu K, et al.	整形外科	In vivo anterior cruciate ligament length pattern assessment secondary to differences in the femoral attachment under loading condition using image-matching techniques.	Journal of Orthopaedic Science 24(2) 294–300 2019	Original Article
106	Murakami Y, Morino T, Misaki H, et al.	整形外科	Association between vertebral fracture and Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis	SPINE 44 E1068–1074 2019	Original Article
107	Yanagihara Y, Nishida K, Watanabe R, et al.	泌尿器科学	Feasibility of Laparoscopic Radical Cystectomy in Elderly Patients: A Comparative Analysis of Clinical Outcomes in a Single Institution	Acta Medica Okayama 73 (5) 413–418	Original Article
108	Moore A, Goerne H, Rajah P, et al.	放射線医学	Chronic Infarcts and Mimickers of Infarcts.	Radiol Clin North Am. 2019 Jan;57(1):57–65.	Original Article
109	Moore A, Goerne H, Rajah P, et al.	放射線医学	Acute Myocardial Infarct.	Radiol Clin North Am. 2019 Jan;57(1):45–55.	Original Article
110	Aono J, Saito M, Inaba S, et al.	放射線医学	Multiple Bee Sting-Induced Life-Threatening Takotsubo Cardiomyopathy.	Circ J. 2019 Jan; 83(2): 489.	Original Article
111	Nous FMA, Coenen A, Boersma E, et al.	放射線医学	Comparison of the Diagnostic Performance of Coronary Computed Tomography Angiography-Derived Fractional Flow Reserve in Patients With Versus Without Diabetes Mellitus (from the MACHINE Consortium).	Am J Cardiol. 2019 Feb ; 123(4): 537–543.	Original Article
112	Watanabe E, Miyagawa M, Uetani T, et al.	放射線医学	Positron emission tomography/computed tomography detection of increased 18F-fluorodeoxyglucose uptake in the cardiac atria of patients with atrial fibrillation.	Int J Cardiol. 2019 May ; 283: 171–177.	Original Article
113	Kurata A, Fukuyama N, Hirai K, et al.	放射線医学	On-site Computed Tomography Derived Fractional Flow Reserve Using a Machine Learning Algorithm: Clinical Effectiveness in a Retrospective Multicenter Cohort.	Circ J 2019 July; 83: 1563–1571.	Original Article
114	Everaars H, deWaard GA, Schumacher SP, et al.	放射線医学	Continuous thermolimitation to assess absolute flow and microvascular resistance: validation in humans using [15O]H <sub>2</sub> O positron emission tomography.	European Heart Journal 2019 Jul ; 40: 2350–2359.	Original Article
115	Rajah P, Tanabe Y, Partovi S, et al.	放射線医学	State of the art: utility of multi-energy CT in the evaluation of pulmonary vasculature.	Int J Cardiovasc Imaging. 2019 Aug;35(8):1509–1524.	Original Article
116	Ogawa R, Kido T, Kido T, et al.	放射線医学	Effect of augment datasets on deep convolutional neural networks applied to chest radiographs.	Clinical Radiology. 2019 Sep;74(9):697–701.	Original Article
117	Tsuruoka S, Kataoka M, Hamamoto Y, et al.	放射線医学	Tumor growth patterns on magnetic resonance imaging and treatment outcomes in patients with locally advanced cervical cancer treated with definitive radiotherapy.	International Journal of Clinical Oncology. 2019 Sep; 24(9): 1119–1128.	Original Article
118	Mitani A, Kobayashi T, Hayashi Y, et al.	眼科学	Characterization of doxycycline-dependent inducible Simian Virus 40 large T antigen immortalized human conjunctival epithelial cell line.	PLoS One. 2019 Sep 11;14(9):e0222454.	Original Article
119	Zheng X, Goto T, Shiraishi A, et al.	眼科学	New method to analyze sagittal images of upper eyelid obtained by anterior segment optical coherence tomography.	Orbit. 2019 Dec;38(6):446–452	Original Article
120	Tomoko Ishino, Eri Murata, Naohito Tokunaga, et al.	分子寄生虫学	Rhoptry neck protein 2 expressed in Plasmodium sporozoites plays a crucial role during invasion of mosquito salivary glands	Cell Microbiol. 2019; 21: e12964	Original Article
121	YukiOda-Yokouchi, Mayumi Tachibana, Hideyuki Iriko, et al.	分子寄生虫学	Plasmodium RON12 localizes to the rhoptry body in sporozoites.	Parasitol Int. 2019; 68(1):17–23	Original Article
122	Daisuke Ito, Eizo Takashima, Tsutomu Yamasaki, et al.	分子寄生虫学	Antibodies against a Plasmodium falciparum RON12 inhibit merozoite invasion into erythrocytes.	Parasitol. Int., 2019; 68(1):87–91	Original Article
123	Tatsuhito Tohmoto, Eizo Takashima, Satoru Takeo, et al.	分子寄生虫学	Anti-MSP11 IgG inhibits Plasmodium falciparum merozoite invasion into erythrocytes in vitro.	Parasitol. Int., 2019; 69:25–29	Original Article
124	Mayumi Tachibana, Kazutoyo Miura, Eizo Takashima, et al.	分子寄生虫学	Identification of domains within Pf230 that elicit transmission blocking antibody responses	Vaccine, 2019; 37:1799–1806	Original Article
125	Hikaru Nagaoka, Chisa Sasaoka, Takaaki Yaguchi, et al.	分子寄生虫学	PfMSA180 is a novel Plasmodium falciparum vaccine antigen that interacts with human erythrocyte integrin associated protein (CD47)	Sci Rep., 2019; 9 (1): 1–11	Original Article
126	Devendra Kumar Gupta, Laurent Dembele, Annemarie Voorberg-van der Wel, et al.	分子寄生虫学	The Plasmodium liver-specific protein 2 (LISP2) is an early marker of liver stage development	Elife, 2019; 8:e43362	Original Article

127	Sirasate Bantuchai, Mamoru Nozaki, Amporn Thongkukiatkul, et al.	分子寄生虫学	Rhoptry neck protein 11 has crucial roles during malaria parasite sporozoite invasion of salivary glands and hepatocytes	Int J Parasitol., 2019; 49:725-735	Original Article
128	Naohito Tokunaga, Mamoru Nozaki, Mayumi Tachibana, et al.	分子寄生虫学	Expression and localization profiles of rhoptry proteins in Plasmodium berghei sporozoites	Front Cell Infect Microbiol. , 2019; 9:316 Sci Rep. 2019 Nov 22; 9(1):17335. doi:10.1038/s41598-019-48304-7	Original Article
129	Nomura S, Takahashi H, Suzuki J, et al.	免疫学·感染防御学	Pyrothiogatain acts as an inhibitor of GATA family proteins and inhibits Th2 cell differentiation in vitro.	J Immunol. 2019 Aug 26, pii:j1900128. Doi: 10.4049/jimmunol.1900128.1-3	Original Article
130	Fu Y, Koh B, Kuwahara M, et al.	免疫学·感染防御学	BATF-interacting proteins dictate specificity in Th subset activity.	J Diabetes Investig. 2019 Apr 10. Doi: 10.1111/jdi.13057	Original Article
131	Onuma H, Kawamura R, Tabara Y, et al.	免疫学·感染防御学	Variants in the BACH2 and CLEC16A gene may be associated with susceptibility to insulin-triggered type 1 diabetes.	Int J Clin Exp Pathol 2019;12(4):1457-1467.	Original Article
132	Akihiro Inoue, Takanori Ohnishi, Shohei Kohno, et al.	分子病理学	Prognostic significance of immunohistochemical subtypes based on the stage of B-cell differentiation in primary CNS lymphoma	Int J Mol Sci. 2019 Dec 20;21(1):58. doi: 10.3390/ijms21010058. PMID: 31861793	Original Article
133	Hyuga T, Alcantara M, Kajioka D, et al.	分子病理学	Hedgehog Signaling for Urogenital Organogenesis and Prostate Cancer: An Implication for the Epithelial-Mesenchyme Interaction (EMI)	Int J Rheum Dis. 2019 Aug;22(8):1489-1497. doi: 10.1111/1756-185X.13610.	Original Article
134	Takeuchi Y, Shigemura T, Kobayashi N, et al.	解析病理学	Clinical features and new diagnostic criteria for the syndrome of periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and cervical adenitis.	PLoS One. 2019 Jun 28;14(6):e0218744. doi: 10.1371/journal.pone.0218744.	Original Article
135	Raihan R, Akbar SMF, Al Mahtab M, et al.	解析病理学	Genomic Analysis of Hepatitis B Virus and Its Association With Disease Manifestations in Bangladesh	Sci Rep. 2019 Aug 21;9(1):12186. doi: 10.1038/s41598-019-48304-7	Original Article
136	Chun C, Takahashi K, Matsuo J, et al.	解析病理学	High possibility of hepatocarcinogenesis in HBV genotype C1 infected Cambodians is indicated by 340 HBV C1 full-genomes analysis from GenBank.	Euroasian J Hepatogastroenterol. 2019 Jan-Jun;9(1):125-56. doi: 10.5005/jp-journals-10018-1297	Original Article
137	Mahtab MA, Akbar SMF, Takahashi K, et al.	解析病理学	Alarming Levels of Hepatitis C Virus Prevalence among Rohingya Refugees in Bangladesh: Emergency National and International Actions Warranted.	Euroasian J Hepatogastroenterol. 2019 Jul-Dec;9(2):84-90. doi: 10.5005/jp-journals-10018-1303	Original Article
138	Chakraborty S, Chakravorty R, Alam S, et al.	解析病理学	A Dynamic Mathematical Modeling Revelation about the Impact of Vaccination on Hepatitis B Virus-induced Infection and Death Rate in Bangladesh.	J Gastroenterol Hepatol. 34: 567-574, 2019. [3.63]	Original Article
139	Hirooka M, Hiraoka A, Ochi H, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Prospective cohort trial to confirm the efficacy of no-touch radio frequency ablation.	Mayo Clin Proc. 94:2004-2010, 2019. [7.09]	Original Article
140	Kumegi T, Terao T, Yokota T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Ehime Pancreato-Cholangiology (EPOCH) Study Group: Early detection of pancreatic cancer in patients with chronic liver disease under hepatocellular carcinoma surveillance.	PLoS One. 14: e0221548, 2019. [2.77]	Original Article
141	Koizumi Y, Hirooka M, Tamaki N, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	New diagnostic technique to evaluate hepatic steatosis using the attenuation coefficient on ultrasound B mode.	Endocr J. 66: 787-792, 2019. [1.94]	Original Article
142	Koizumi Y, Hirooka M, Hiraoka A, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Lenvatinib-induced thyroid abnormalities in unresectable hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 49: 136-146, 2019. [3.44]	Original Article
143	Watanabe T, Tokumoto Y, Joko K, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Precursors of hepatocellular carcinoma occurrence after direct-acting antiviral therapy in patients with hepatitis C virus infection.	Int J Mol Sci. 20: E1521, 2019. [4.18]	Original Article
144	Kawamura T, Matsuura B, Miyake T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Effects of motilin receptor agonists and ghrelin in human motilin receptor transgenic mice.	Sci Rep. 9: 977, 2019. [4.01]	Original Article
145	Nakamura Y, Abe M, Kawasaki K, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Depletion of 15 cent-activating factor attenuates hepatic fat accumulation in a murine model of nonalcoholic fatty liver disease.	PLoS One. 14: e0212589, 2019. [2.77]	Original Article
146	Imai Y, Yoshida O, Watanabe T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Stimulated hepatic stellate cell promotes progression of hepatocellular carcinoma due to protein kinase R activation.	Jpn J Clin Oncol. 49: 42-47, 2019. [2.18]	Original Article
147	Yukimoto A, Hirooka M, Hiraoka A, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Using ALBI score at the start of sorafenib treatment to predict regorafenib treatment candidates in patients with hepatocellular carcinoma.	J Diabetes Investig. 10: 1083-1091, 2019. [3.90]	Original Article
148	Miyauchi S, Miyake T, Miyazaki M, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Insulin-like growth factor-1 is inversely associated with liver fibrotic markers in patients with type 2 diabetes mellitus.	Intern Med. 58: 505-510, 2019. [0.95]	Original Article
149	Yoshida N, Miyake T, Yamamoto S, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	The serum creatinine level might be associated with the onset of impaired fasting glucose: A community-based longitudinal cohort health checkup study.	Biochem Biophys Res Commun. 520: 86-92, 2019. [2.70]	Original Article
150	Sanada T, Yamamoto N, Kayesh MEH, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Intranasal vaccination with HBs and HBc protein combined with carboxyl vinyl polymer induces strong neutralizing antibody, anti-HBs IgA, and IFNγ response.	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 10: 347-354, 2019. [10.75]	Original Article
151	Hiraoka A, Izumoto H, Ueki H, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Easy surveillance of muscle volume decline in chronic liver disease patients using finger-circle (yubi-wakka) test.	Liver Cancer. 8: 121-129, 2019. [5.94]	Original Article
152	Hiraoka A, Kumada T, Tsuji K, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Validation of Modified ALBI Grade for More Detailed Assessment of Hepatic Function in Hepatocellular Carcinoma Patients: A Multicenter Analysis.	Hepatol Res. 50: 92-100, 2020 [3.44]	Original Article
153	Hiraoka A, Nagamatsu K, Izumoto H, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	zinc deficiency as an independent prognostic factor for patients with early hepatocellular carcinoma due to hepatitis virus.	Hepatol Res. 49: 823-829, 2019. [3.44]	Original Article
154	Hiraoka A, Tamura R, Oka M, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Prediction of risk of falls based on handgrip strength in chronic liver disease patients living independently.	Oncology. 96: 242-251, 2019. [2.27]	Original Article
155	Hiraoka A, Hirooka M, Ochi H, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Combination of Resection and Ablative Treatment for Hepatocellular Carcinoma: Usefulness of Complementary Radiofrequency Ablation.	Eur J Gastroenterol Hepatol. 31: 878-884, 2019. [2.19]	Original Article
156	Hiraoka A, Kiguchi D, Ninomiya T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Can L-carnitine supplementation and exercise improve muscle complications in patients with liver cirrhosis who receive branched-chain amino acid supplementation?	Mol Clin Oncol. 11: 325-330, 2019.	Original Article
157	Yamago H, Hiraoka A, Murakami T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Ultrasonography surveillance improves prognosis of patients with hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 49: 105-110, 2019. [3.44]	Original Article
158	Aiso M, Takikawa H, Tsuji K, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Analysis of 307 cases with drug-induced liver injury between 2010 and 2018 in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 34: 1066-1073, 2019. [3.63]	Original Article
159	Tada T, Kumada T, Toyoda H, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Impact of albumin-bilirubin grade on survival in patients with hepatocellular carcinoma who received sorafenib: An analysis using time-dependent receiver operating characteristic.	Int J Clin Pharmacol Ther. 57: 474-477, 2019.	Original Article
160	Suzuki Y, Tanaka A, Tanaka M, Hidaka N, Miyake T, Matsuura B, Hiasa Y, Araki H	消化器・内分泌・代謝内科学	Clinical effectiveness of switching between DPP-4 inhibitors in patients with type 2 diabetes mellitus.	Hepatol Res. 50: 75-83, 2019. [3.44]	Original Article
161	Tada T, Kumada T, Hiraoka A, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Safety and efficacy of lenvatinib in elderly patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter analysis with propensity score matching.		Original Article

162	Honda A, Tanaka A, Kaneko T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Japan PBC Study Group: Bezaifibrate improves GLOBE and UK-PBC scores and long-term outcomes in patients with primary biliary cholangitis.	Hepatology. 70: 2035-2046, 2019. [14.97]	Original Article
163	Hitomi Y, Ueno K, Kawai Y, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	POGLD11, the putative effector gene driven by rs2293370 in primary biliary cholangitis susceptibility locus chromosome 2p12.22	Sci Rep. 9: 102, 2019. [4.01]	Original Article
164	Shigefuku R, Iwasa M, Katayama K, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Hypozincemia is associated with human hepatocarcinogenesis in hepatitis C virus-related liver cirrhosis.	Hepatol Res. 49: 1127-1135, 2019. [3.44]	Original Article
165	Miyau N, Yamanishi Y, Tada S, et al.	臨床薬理学	Repetitive brainstem lesions in mitochondrial DNA 11778G>A mutation of Leber hereditary optic neuropathy.	eNeurologicalSci. 2019; 14:74-76.	Original Article
166	Iwaki H, Sogo H, Morita H, et al.	臨床薬理学	Using Spontaneous Eye-blink Rates to Predict the Motor Status of Patients with Parkinson's Disease.	Intern Med. 2019; 58(10):1417-1421.	Original Article
167	Iwaki H, Tagawa M, Iwasaki K, et al.	臨床薬理学	Comparison of zonisamide with non-levodopa, anti-Parkinson's disease drugs in the incidence of Parkinson's disease-relevant symptoms.	J Neurol Sci. 2019; 402:145-152.	Original Article
168	Miyau N, Yamanishi Y, Tada S, et al.	臨床薬理学	Phenotypic Diversity of Myoclonus Epilepsy Associated with Ragged-red Fibers with an 8344A>G mtDNA Mutation.	Intern Med. 2019; 58:2753.	Original Article
169	Miyau N, Yabe H, Nomoto M, et al.	臨床薬理学	Effect of percutaneous endoscopic gastrojejunostomy tube placement on levodopa pharmacokinetics.	Eur J Clin Pharmacol. 2019; 75(12):1753-1755.	Original Article
170	Kei Ishimaru, Mitsunori Sato, Satoshi Akita, et al.	消化器・腫瘍外科学	Usefulness of the HyperEye Medical System in Obstructive Colitis Proximal to Colon Carcinoma	Journal of Nippon Medical School Vol. 86 No.2 2019	Original Article
171	Satoh J, Yokono K, Ando R, et al.	産科婦人科学	Diabetes Care Providers' Manual for Disaster Diabetes Care	J Diabetes Investig. 10:1118-1142, 2019	Original Article
172	Hamada K, Takagi S, Kuboshima H, et al.	産科婦人科学	Cloning of carrier cells infected with oncolytic adenovirus driven by midkine promoter and biosafety studies	J Gene Med. 21:e3064, 2019	Original Article
173	Iwama N, Metoki H, Nishigori H, et al.	産科婦人科学	Association between alcohol consumption during pregnancy and hypertensive disorders of pregnancy in Japan: The Japan Environment and Children's Study	Hypertens Res. 42:85-94,2019	Original Article
174	Iwama N, Metoki H, Nishigori H, et al.	産科婦人科学	Blood pressure changes during twin pregnancies: the Japan Environment and Children's Study	J Hypertension 37:206-215,2019	Original Article
175	Takagi K, Iwama N, Metoki H, et al.	産科婦人科学	Paternal height has an impact on fetal growth in a Japanese population: the Japan Environment and Children's Study	J Dev Orig Health Dis. 11:1-13,2019	Original Article
176	Iwama N, Sugiyama T, Metoki H, et al.	産科婦人科学	Difference in the prevalence of gestational diabetes mellitus according to gestational age at 75-g oral glucose tolerance test, in Japan: The JAGS trial	J Diabetes Investig. 10:1576-1585,2019	Original Article
177	Miyoshi Y, Matsubara K, Takata N, et al.	産科婦人科学	Significance of pre-hospital care to reduce the morbidity of eclampsia in rural Zambia	Pregnancy Hypertension 17: 100-103, 2019	Original Article
178	Miyoshi Y, Matsubara K, Takata N, Oka Y	産科婦人科学	Baby Survival in Zambia: Stillbirth and Neonatal Death in a Local Hospital Setting	BMC Pregnancy and Childbirth 19:90, 2019	Original Article
179	Inoue, T, M. Inouchi, M. Matsuhashi, et al.	脳神経外科学	Interictal Slow and High-Frequency Oscillations: Is it an Epileptic Slow or Red Slow?	J Clin Neurophysiol 36(2): 166-170, 2019	Original Article
180	Namiki, T., I. Tsuda, S. Tadokoro, et al.	脳神経外科学	Mathematical structures for epilepsy: High-frequency oscillation and interictal epileptic slow (red slow).	Neurosci Res, 2019	Original Article
181	Neshige, S., K. Kobayashi, M. Matsuhashi, et al.	脳神経外科学	A rational, multispectral mapping algorithm for primary motor cortex: A primary step before cortical stimulation.	Epilepsia 60(3): 547-559, 2019	Original Article
182	Neshige, S., K. Kobayashi, M. Matsuhashi, et al.	脳神経外科学	A score to map the lateral nonprimary motor area: Multispectrum intrinsic brain activity versus cortical stimulation	Epilepsia 60(11): 2294-2305, 2019	Original Article
183	Nishida, S., T. Aso, S. Takaya, Y. et al.	脳神経外科学	Resting-state Functional Magnetic Resonance Imaging Identifies Cerebrovascular Reactivity Impairment in Patients With Arterial Occlusive Diseases: A Pilot Study.	Neurosurgery 85(5): 680-688, 2019	Original Article
184	Takeyama, H., R. Matsumoto, K. Usami, et al.	脳神経外科学	Human entorhinal cortex electrical stimulation evoked short-latency potentials in the broad neocortical regions: Evidence from cortico-cortical evoked potential recordings.	Brain Behav 9(9): e01366, 2019	Original Article
185	Todo, K., N. Sakai, H. Imamura, et al.	脳神経外科学	Successful Reperfusion with Endovascular Therapy Has Beneficial Effects on Long-Term Outcome Beyond 90 Days.	Cerebrovasc Dis 47(3-4): 127-134, 2019	Original Article
186	Usami, K., A. Korzeniewska, R. Matsumoto, et al.	脳神経外科学	The neural tides of sleep and consciousness revealed by single-pulse electrical brain stimulation.	Sleep 42(6), 2019	Original Article
187	Shikata E, Tamura T, Shinno K, et al.	脳神経外科学	Importance of Managing the Water-Electrolyte Balance by Delivering the Optimal Minimum Amount of Water and Sodium After Subarachnoid Hemorrhage.	WORLD NEUROSURG Sep;129:352-360,2019	Original Article
188	Yoshitomo Ueno, Saya Ozaki, Akihiro Umakoshi, et al.	脳神経外科学	Chloride intracellular channel protein 2 in cancer and non-cancer human tissues: relationship with tight junctions.	Tissue Barriers. 2019;7(1):1593775. doi: 10.1080/21688370.2019.1593775	Original Article
189	Sekiya K, Nishihara T, Abe N, et al.	麻酔・周術期学	Carbon monoxide poisoning-induced delayed encephalopathy accompanies decreased microglial cell numbers: Distinctive pathophysiological features from hypoxemia-induced brain damage	Brain Research 2019; 1710: 22-32	Original Article
190	Tanijima M, Takechi K, Nakanishi K, et al.	麻酔・周術期学	Adverse events associated with continuous interscalene block administered using the catheter-over-needle method: a retrospective analysis	BMC Anesthesiology 2019; 19: 195	Original Article
191	Yoshikawa T, Kimura E, Nakao H, et al.	麻酔・周術期学	Prediction of the service life of surgical instruments from the surgical instrument management system log using radio frequency identification	BMC Health Services Research 2019; 19: 695	Original Article
192	Takata N, Tanaka K, Nagata C, et al.	疫学・予防医学	Prenatal birth is associated with higher prevalence of wheeze and asthma in a selected population of Japanese children aged 2 years	Allergol Immunopathol. 47: 425-430. doi: 10.1016/j.aller.2019.10.004	Original Article
193	Fukui J, Nobutoh C, Okada M, et al.	疫学・予防医学	Association of household income and education with prevalence of hearing impairment in Japan.	Laryngoscope. 129: 2153-2157. doi: 10.1002/lary.27758.	Original Article
194	Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, et al.	疫学・予防医学	Maternal caffeine intake in pregnancy is inversely related to childhood peer problems in Japan: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study.	NUTR Neurosci. 22: 817-824. doi: 10.1080/1028415X.2018.1450089	Original Article
195	Takahashi K, Tanaka K, Nakamura Y, et al.	疫学・予防医学	Calcium intake during pregnancy is associated with decreased risk of emotional and hyperactivity problems in five-year-old Japanese children.	NUTR Neurosci. Nov 5;1-8. doi: 10.1080/1028415X.2019.1676971	Original Article
196	Watanabe S, Kawakami Y, Kimura H, et al.	疫学・予防医学	Association between daptomycin susceptibility and teicoplanin resistance in Staphylococcus epidermidis.	Sci Rep. 9: 18533. doi: 10.1038/s41598-019-55140-9	Original Article
197	Tanaka K, Takeba J, Matsumoto H, et al.	法医学	Anticoagulation Therapy Using rh-Thrombomodulin and/or Antithrombin III Agent is Associated With Reduction in in-Hospital Mortality in Septic Disseminated Intravascular Coagulation A Nationwide Registry Study	Shock 2019; 51: 713-717.	Original Article

小計36件

198	Sakurada M, Yoshioka N, Kuse A, et al.	法医学	Rapid identification of <i>Gloriosa superba</i> and <i>Colchicum autumnale</i> by melting curve analysis: application to a suicide case involving massive ingestion of <i>G. superba</i> .	Int J Leg Med 2019; 133(4): 1065-1073.	Original Article
199	Miura S, Kosaka K, Nomura T, et al.	脳神経内科・老年医学	TDRKH is a candidate gene for an autosomal dominant distal hereditary motor neuropathy.	Eur J Med Genet 62: 103594	Original Article
200	Miura S, Kosaka K, Fujioka R, et al.	脳神経内科・老年医学	Spinocerebellar ataxia 27 with a novel nonsense variant (Lys177X) in FGF14.	Eur J Med Genet 62: 172-176	Original Article
201	Ohno R, Kawamoto R, Kanamoto M, et al.	地域医療学	Neutrophil to Lymphocyte Ratio is a Predictive Factor of Malignant Potential for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the pancreas.	Biomark Insights 14: 1177271919851505, 2019.	Original Article
202	Sato T, Miki T, Furukawa S, et al.	地域医療学	Longitudinal impact of dapagliflozin treatment on ventricular repolarization heterogeneity in patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Investig 2019; 10(6): 1593-1594.	Original Article
203	Kawamoto R, Akase T, Ninomiya D, et al.	地域医療学	Metabolic syndrome is a predictor of decreased renal function among community-dwelling middle-aged and elderly Japanese.	Int Urol Nephrol 51; 12: 2285-2294, 2019.	Original Article
204	Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, et al.	地域医療学	Usefulness of the waist-to-height ratio in screening incident metabolic syndrome among Japanese elderly community-dwelling persons.	PLoS One 14; 4: e0216069, 2019.	Original Article
205	Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, et al.	地域医療学	Serum uric acid to creatinine ratio is a useful predictor of renal dysfunction among diabetic persons.	Diabetes & Metabolic Syndrome: Clinical Research & Reviews 13; 3: 1851-1856, 2019.	Original Article
206	Kawamoto R, Ninomiya D, Akase T, et al.	地域医療学	Interactive association of baseline and changes in serum uric acid on renal dysfunction among community-dwelling persons.	J Clin Lab Anal: e23166, 2019.	Original Article
207	Kuwahara N, Tanabe Y, Kido T, et al.	地域救急医療学	Coronary artery stenosis-related perfusion ratio using dynamic computed tomography myocardial perfusion imaging.	Cardiovasc Interv Ther. 2019 Oct 19	Original Article
208	Tanito M, Nitta K, Katai M, et al.	視機能再生学	Validation of formula-predicted glaucomatous optic disc appearances: the Glaucoma Stereo Analysis Study.	Acta Ophthalmol. 2019 Feb;97(1):e42-e49.	Original Article
209	Kato S, Takahashi A, Shindo M, et al.	地域生活習慣病・内分泌学	Characterization of the gastric motility response to human motilin and erythromycin in human motilin receptor-expressing transgenic mice.	PLoS One 14: e0205939, 2019	Original Article
210	Hiraoka A, Kiguchi D, Ninomiya T, et al.	地域生活習慣病・内分泌学	Can L-carnitine supplementation and exercise improve muscle complications in patients with liver cirrhosis who receive branched-chain amino acid supplementation?	Eur J Gastroenterol Hepatol 31: 878-884, 2019	Original Article
211	Koizumi Y, Hirooka M, Hiraoka A, et al.	地域生活習慣病・内分泌学	Lenvatinib-induced thyroid abnormalities in unresectable hepatocellular carcinoma.	Endocr J 66: 787-792, 2019	Original Article
212	D'Souza M, Chen KS, Rosenberg J, et al.	脳神経先端医学	Impact of skin density ratio on efficacy and safety of magnetic resonance-focused ultrasound treatment of essential tremor.	J Neurosurg. 2019 Apr 26: 1-6.	Original Article
213	Ohta Y, Kamide K, Hanada H, et al.	抗加齢医学	Genetic factors associated with elevation of uric acid after treatment with thiazide-like diuretic in patients with essential hypertension.	Hypertens Res. 2019 doi: 10.1038/s41440-019-0356-x.	Original Article
214	Tabara Y, Kohara K, Okada Y, et al.	抗加齢医学	Creatinine-to-cystatin C ratio as a marker of skeletal muscle mass in older adults: J-SHIPP study.	Clin Nutr. 2019 Aug 6. pii: S0261-5614(19)30309-7. doi: 10.1016/j.clnu.2019.07.027.	Original Article
215	Kitazawa R, Kinto-Shibahara S, Haraguchi R, et al.	病理診断科・病理部	Activation of protein kinase C accelerates murine osteoclastogenesis partly via transactivation of RANK gene through functional AP-1 responsive element in RANK gene promoter.	Biochem Biophys Res Commun, 23;515(2):268-274. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.05.144.	Original Article
216	Kitazawa R, Xiang Y, Dai Y, et al.	病理診断科・病理部	Testis developmental related gene 1 regulates the chemosensitivity of seminoma TCam-2 cells to cisplatin via autophagy.	J Cell Mol Med. 2019 Nov;23(11):7773-7784. doi: 10.1111/jcmm.14654	Original Article
217	S Kitazawa, R Haraguchi, Y Kohara, et al.	病理診断科・病理部	Modulation of $\alpha v \beta 3$ Integrin via Transactivation of $\beta 3$ Integrin Gene on Murine Bone Marrow Macrophages by 1, 25 (OH) 2D3, Retinoic Acid and Interleukin-4	Acta histochemica et cytochemica 52 (4), 77-83.	Original Article
218	Kazufumi Tanigawa, Masashi Maekawa, Takeshi Kiyoi, et al.	病理診断科・病理部	SNX9 determines the surface levels of integrin $\beta 1$ in vascular endothelial cells: Implication in poor prognosis of human colorectal cancers overexpressing SNX9	Journal of Cellular Physiology, volume234, Issue10 October 2019 Pages 17280-17294.	Original Article
219	Akihiro Inoue, Takanori Ohnishi, Shohei Kohno, et al.	病理診断科・病理部	Prognostic significance of immunohistochemical subtypes based on the stage of B-cell differentiation in primary CNS lymphoma	Int J Clin Exp Pathol 2019;12(4):1457-1467.	Original Article
220	Okada K, Matsuda M, Tsuda T, et al.	病理診断科・病理部	Dual-energy computed tomography for evaluation of breast cancer: value of virtual monoenergetic images reconstructed with a noise-reduced monoenergetic reconstruction algorithm	Jpn J Radiol. 2019 Nov 4. doi: 10.1007/s11604-019-00897-1.	Original Article
221	Hattori N, Takeda A, Takeda S, et al.	臨床研究支援センター	Rasagiline monotherapy in early Parkinson's disease: A phase 3, randomized study in Japan.	Parkinsonism Relat Disord. 2019; 60:146-152.	Original Article
222	Hattori N, Takeda A, Takeda S, Nishimura A, et al.	臨床研究支援センター	Long-term safety and efficacy of adjunctive rasagiline in levodopa-treated Japanese patients with Parkinson's disease.	J Neural Transm. 2019; 126:289-297.	Original Article
223	Hattori N, Takeda A, Takeda S, Nishimura A, et al.	臨床研究支援センター	Long-term, open-label, phase 3 study of rasagiline in Japanese patients with early Parkinson's disease.	J Neural Transm. 2019; 126:299-308.	Original Article
224	Ogura S, Suzuki J, Suzuki H.	医療安全管理部	Antihypertensive Drug Therapy for Women With Non-Severe Hypertensive Disorders of Pregnancy: A Systematic Review and Meta-Analysis	Hypertens Res. 42:699-707, 2019 doi: 10.1038/s41440-018-0188-0.	Original Article
225	Masuda Y, Takeuchi K, Kodama T, et al.	腫瘍センター	Treatment-associated outcomes of patients with primary ocular adnexal MALT lymphoma after accurate diagnosis.	Int. J. Clin. Oncol. 24(12): 1620-1628	Original Article
226	Sakane Y, Yamaguchi M, Shiraishi A.	屈折矯正センター	Retrospective Observational Study on Rebamipide Ophthalmic Suspension on Quality of Life of Dry Eye Disease Patients	J Ophthalmol. 2019 May 2;2019:8145731	Original Article
227	Kawabe K, Horiuchi F, Oka Y, et al.	睡眠医療センター	Association between Sleep Habits and Problems and Internet Addiction in Adolescents.	Psychiatry Investig 16(8):581-587	Original Article
228	Naoto Okada, Hitoshi Kawazoe, Kenshi Takechi, et al.	医療薬学・薬剤部	Association Between Immune-Related Adverse Events and Clinical Efficacy in Patients With Melanoma Treated With Nivolumab: A Multicenter Retrospective Study	Clin Ther. 41,1,59-67,doi: 10.1016/j.clinthera.2018.11.004.	Original Article
229	Sawada Y, Kikugawa T, Iio H, et al.	学術支援センター	GPRC5A Facilitates Cell Proliferation Through Cell Cycle Regulation and Correlates With Bone Metastasis in Prostate Cancer	Int J Cancer. 2020 Mar 1;146(5):1369-1382 (doi: 10.1002/ijc.32554)	Original Article
230	Takemori A, Nakashima T, Omura H, et al.	プロテオミクス研究部門	Quantitative assay of targeted proteome in tomato trichome glandular cells using a large-scale selected reaction monitoring strategy	Plant Methods. 2019 Apr 24;15:40. doi: 10.1186/s13007-019-0427-7.	Original Article
231	Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, et al.	総合臨床研修センター・地域医療支援センター	Association of neutrophil-to-lymphocyte ratio with early renal dysfunction and albuminuria among diabetic patients.	Int Urol Nephrol 2019;51:1-8.	Original Article
232	Ryuichi Kawamoto, Daisuke Ninomiya, Taichi Akase, et al.	総合臨床研修センター・地域医療支援センター	Serum Uric Acid to Creatinine Ratio Independently Predicts Incident Metabolic Syndrome Among Community-Dwelling Persons	Metabolic syndrome and related disorders 2019;17:81-89.	Original Article
233	Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, et al.	総合臨床研修センター・地域医療支援センター	Total bilirubin independently predicts incident metabolic syndrome among community-dwelling women.	Diabetes & Metabolic Syndrome 2019;13:1329-1334.	Original Article

234	Ryuichi Kawamoto, Taichi Akase, Daisuke Ninomiya, et al.	総合臨床研修センター・地域医療支援センター	Metabolic syndrome is a predictor of decreased renal function among community-dwelling middle-aged and elderly Japanese.	International urology and nephrology 2019;51:2285 - 2294.	Original Article
-----	----------------------------------------------------------	-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	------------------

計234件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること。  
記載例: Lancet 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet 2015 Dec (オンライン))
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 病院長の責務、研究者等の責務、倫理審査委員会の設置、個人情報等、重篤な有害事象への対応に関する手順、研究の信頼性確保、研究実施に関する窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反委員会、利益相反相談室、自己申告書の提出等の手続き	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 「臨床研究を取り巻く環境の変化と推進への取り組み」、「医療倫理に関する講演会－医療に求められる倫理－」、「臨床研究法施行後明らかになった問題点」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

**第一内科 【血液内科】 【膠原病・リウマチ内科】 【感染症内科】**

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

**第二内科 【循環器内科】 【呼吸器内科】 【腎臓内科】**

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行った。

**第三内科 【消化器内科】 【肝臓内科】 【内分泌代謝内科】**

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として消化管・肝・胆・膵領域、甲状腺・副腎皮質などの内分泌領域、糖尿病をはじめとする糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、金属代謝などの代謝領域、および栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標を持ち自律的意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者等の各種指導資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

**脳神経内科 【老年・神経内科】**

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医が、神経疾患、脳卒中や認知症の診療を教育した。入院診療では、免疫性神経疾患や変性疾患などを主体として、神経学的診察、末梢神経・中枢神経の電気生理検査、針筋電図や超音波検査(頸部血管、経頭蓋、経食道)などの専門手技の研修を行った。また、認知症診療では、愛媛県認知症疾患医療センターやもの忘れ外来診療を中心に、薬物治療や介護保険の利用法、その他の社会支援制度利用や生活指導の方法などの教育を行った。

**糖尿病内科・臨床検査医学 【糖尿病内科】**

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施した。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型(2次性)糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CGM)を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行った。

**臨床薬理神経内科 【薬物療法・神経内科】**

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行った。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行った。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。



### 【精神科】

大学病院及び関連病院にて研修を行っている。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、その分野で研鑽をつみ、精神科医としての技能や知識を習得する。また、下記の項目にも重点をおく。

1. 児童思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例、また器質性、機能的、反応性の各精神障害の症例すべての臨床経験を獲得するよう主治医としてかかわる。
2. 臨床研究として、学会発表を行う。
3. 国内・国際学会、教室内外の勉強会に参加する。
4. クロザピン投与、修正型電気けいれん療法、光トポグラフィーなど極めて専門性の高い検査・治療に携わる。

また、臨床経験5年後には、精神保健指定医を取得し、日本精神神経学会専門医の獲得ができるよう環境を整えている。

### 【小児科】

後期研修1年目より専門医の取得を目指し小児の各分野の高度医療を実践する。特に新生児の管理・治療、小児がんの造血細胞移植などの高度医療、循環器疾患のインターベンション治療を含めた高度医療、難治性神経疾患の治療、遺伝性疾患の遺伝カウンセリングなどの他、感染症、内分泌・代謝、アレルギー、腎、膠原病などの幅広い小児科の分野の研修を行っている。また研修期間中は予防接種、健診などの予防医療についても研修を行っている。

### 【消化器腫瘍外科】

消化器（主に消化管）癌に対する外科的治療（開腹、内視鏡、ロボット支援手術）を系統的に学び、更に化学療法、放射線治療などの集学的治療による治療戦略を学ぶことができる臨床研修を行う。外科専門医のみならず内視鏡外科技術認定医を目指した高度な手術技術を指導する。ドライラボ、アニマルラボ、シミュレータ、カダバーによる習熟度に応じた手術指導も定期的に行われ、スキルアップを図る体制を用意している。

### 【肝胆膵・移植外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆膵外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行った。

### 【心臓血管・呼吸器外科】

- 1 心臓血管外科におきましては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標としています。将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行った。
- 2 呼吸器外科におきましては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能です。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行った。

### 【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で、脳神経外科の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させるため、基本診療科の一つとして、愛媛大学と関連連携施設で研修をすすめる。当施設では脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、脳卒中の急性期治療（脳血管内治療を含む）、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な微小解剖のトレーニングを中心としている。脳腫瘍・脳血管疾患、脊椎・脊髄の主要な疾患の他に、小児脳神経外科、機能神経外科、感染症などの田崎な疾患群全てを研修可能である。それによって、脳神経外科専門医取得にあたっての、十分な臨床経験を積める環境が整っている。

### 【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観を備えた医師を養成すべく、進歩す

る医学知識と最新の医療技術を研鑽させた。特に以下の3点に重点を置いた教育を行った。

- 1, 高齢者のQOLを支える医療
- 2, エビデンスに基づく幅広い治療方針
- 3, 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

さらに、整形外科専門医習得に必要な臨床症例の経験と論文作成・学術発表の指導も行った。

#### 皮膚科、形成外科 【皮膚科】 【形成外科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けている。

皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っている。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能である。

形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っている。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得も可能である。

#### 【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行います。効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備しています。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対しての内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行っています。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療なども、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行っています。

#### 【眼科】

日本眼科学会の研修プログラム基幹研修施設として眼科指導医のもとで、眼科学の進歩に応じて、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成するための指導を行った。研修プログラムでは、外来患者および年間1000例以上の手術症例を中心に、眼科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を取得させる内容となっている。また、高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行っている。

#### 【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

#### 放射線科 【放射線診断分野】 【放射線治療分野】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする。
2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする。

#### 産婦人科 【周産期医学分野】 【婦人科腫瘍分野】 【女性医学分野】 【生殖医療分野】

日本産科婦人科学会専門医指導医のもと、上記4領域において患者を担当する医療者チームの

一員として診断・治療に携わる。4領域に関する研修ガイドラインに基づいて臨床に必要な基本知識・産婦人科疾患に対する検査・診断・治療を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学分野：母体合併症妊娠における母児の問題点および管理法、超音波検査を用いた胎児の推定体重や血流測定を含めた胎児の元気度の評価や構造異常の評価に関して修得する。分娩管理については、分娩進行の評価につき研修し、分娩介助および帝王切開の適応・手技についても修得する。
2. 婦人科腫瘍分野：婦人科疾患における超音波検査・CT検査・MRIなどの画像診断を用いた診断学の修得を行う。内診による腫瘍の進展度の評価やコルポスコーピーによる子宮頸部病変の評価について研修する。開腹術・腹腔鏡下の婦人科手術手技を理解し、基本的手技および周術期管理の実際について修得する。
3. 女性医学分野：女性の内分泌疾患に対する診断・管理やホルモン補充療法、更年期障害に対するアプローチについて研修する。
4. 生殖医療分野：不妊症の検査・診断および生殖補助技術\*以外の排卵誘発法やタイミング法などの基本的な治療について研修する。(\*:生殖補助技術については、他施設において研修する。)

#### 【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔，集中治療管理，痛みの治療の研修指導を行い，さらに下記の研修を通して，より高度な医療技術を身につけるよう指導した。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 緩和ケア医療の研修

#### リハビリテーション部 【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行った。

- 1) 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。
- 2) 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

#### 【救急科】

専攻医には、以下の3つの学習方法で専門研修を行います。

- 1 臨床現場での学習：経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医に広く臨床現場での学習を提供します。
  - 1) 救急診療や手術での実地修練(on-the-job training)
  - 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
  - 3) 抄読会・勉強会への参加
  - 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得
- 2 臨床現場を離れた学習：国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会および JATEC、JPTEC、ICLS コースなどの off-the-job training course に積極的に参加します。救命処置法の習得のみならず、インストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学びます。また、研修施設もしくは日本救急医学会等が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加します。
- 3 自己学習 専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会等が

準備する「救急診療指針」、e-Learning などを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供します。 研修プログラムの実際と特徴 本研修プログラムは、各専攻医の希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるように設計された研修コースです。本研修プログラムによる救急科専門医取得後には、集中治療、外傷、熱傷などの救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を選択することが可能です。プログラム期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。また本研修プログラム管理委員会は、基幹研修施設である愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっています。

#### 歯科口腔外科・矯正歯科【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後のfollowを行った。

また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験した。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んだ。

#### 病理診断科・病理部【病理科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹である病理診断（病理解剖、手術・生検標本診断、細胞診）を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実施し、社会的ニーズに応じた病理専門医を育成する。病理専門研修では、日本病理学会の「専門研修手帳」に記された基準を満たすよう、知識・技能・態度の指導を行う。病理解剖については、視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得・肉眼所見と病理組織標本検鏡・診断書作成、全例CPCを行う。手術・生検標本の診断と細胞診断は、業務マニュアルによる切り出し手技や報告書作成の標準化と、指導医によるマンツーマン指導・全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表討論を日常的に行い、愛媛県病理研究会、中四国支部会、日本病理学会総会での症例報告を指導する。基礎の病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法の研鑽を奨励する。病理診断学の修練のみならず、専門医取得後のキャリア形成に留意し、後進の指導にあたる人材育成を目指す。

#### 睡眠医療センター 【睡眠医療】

睡眠障害の診断・治療について、専門的研修を実施する。日本睡眠学会認定医療機関であり、年間200例以上の終夜睡眠ポリグラフィ実施を基盤とした睡眠障害の生理学的診断法、ならびに睡眠覚醒メカニズムに即した治療手法について、学会認定医が研修を担当する。国際学会での発表、論文指導も行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	154人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹中 克斗	第一内科	教授	29年	
山之内 純	輸血・細胞治療部	准教授	25年	血液
薬師神 芳洋	腫瘍センター	教授	32年	腫瘍内科
池田 俊太郎	循環器内科	教授	28年	
山口 修	呼吸器内科	教授	25年	循環器・呼吸器・高血圧内科学
日浅 陽一	第三内科	教授	30年	消化器・内分泌・代謝内科学
大八木 保政	脳神経内科	教授	35年	神経内科・老年病
大澤 春彦	糖尿病内科・臨床検査医学	教授	32年	
永井 将弘	臨床薬理神経内科	特任教授	32年	
上野 修一	精神科	教授	35年	
江口 真理子	小児科	教授	29年	
檜垣 高史	地域小児・周産期	教授	32年	
田内 久道	感染制御部	准教授	30年	
渡部 祐司	消化管腫瘍外科	教授	37年	
高田 泰次	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	教授	37年	消化器外科、肝胆膵・移植外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸器外科	教授	32年	心臓血管外科
佐野 由文	心臓血管・呼吸器外科	准教授	35年	呼吸器外科
國枝 武治	脳神経外科	教授	27年	脳神経外科
三浦 裕正	整形外科	教授	37年	
佐山 浩二	皮膚科・形成外科	教授	36年	
雑賀 隆史	泌尿器科	教授	33年	
白石 敦	眼科	教授	34年	
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	31年	耳鼻咽喉科
城戸 輝仁	放射線科	教授	21年	放射線診断分野
倉田 聖	放射線科	准教授	24年	放射線治療分野
杉山 隆	産婦人科	教授	33年	周産期・女性医学分野
松原 圭一	産婦人科	教授	33年	周産期医学分野
藤岡 徹	産婦人科	准教授	29年	婦人科腫瘍分野
萬家 俊博	麻酔科蘇生科	教授	36年	
佐藤 格夫	救急科	教授	25年	
中城 公一	歯科口腔外科・矯正歯科	准教授	27年	
北澤 理子	病理診断科・病理部	特任教授	26年	

岡 靖哲	睡眠医療センタ ー	准教授	27年	睡眠医療
------	--------------	-----	-----	------

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容：「倫理、個人情報保護および接遇について」（検査部勉強会）
- ・研修の期間・実施回数：平成31年4月23日～25日・3回
- ・研修の参加人数：45名
  
- ・研修の主な内容：「第14回全国国立大学臨床検査技師会中国四国地区研修会」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年10月19日～20日・1回
- ・研修の参加人数：5名
  
- ・研修の主な内容：「第21回国公立大学附属病院感染対策協議会」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年10月31日～11月1日・1回
- ・研修の参加人数：2名
  
- ・研修の主な内容：「令和元年度国公立大学病院医療技術関係職員研修（臨床検査技術者）」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年11月12日～15日・1回
- ・研修の参加人数：1名
  
- ・研修の主な内容：「第10回日本小児救急学会 小児脳死判定セミナー」
- ・研修の期間・実施回数：令和2年1月26日・1回
- ・研修の参加人数：1名
  
- ・研修の主な内容                    新規採用者研修（医師・看護師・メディカルスタッフ）

- ・研修の期間・実施回数 2019年4月2日
- ・研修の参加人数 医師：57名、看護師：95名、メディカルスタッフ：12名
  
- ・研修の主な内容 新人看護職員研修（薬剤管理）
- ・研修の期間・実施回数 2019年4月4日
- ・研修の参加人数 47名
  
- ・研修の主な内容 新人看護職員研修（薬剤管理）
- ・研修の期間・実施回数 2019年4月5日
- ・研修の参加人数 48名
  
- ・研修の主な内容 新規採用者研修（事務職員・外部委託業者）
- ・研修の期間・実施回数 2019年4月11日
- ・研修の参加人数 30名
  
- ・研修の主な内容 病棟看護師研修(婦人科における化学療法薬について)
- ・研修の期間・実施回数 2019年5月16日
- ・研修の参加人数 20名
  
- ・研修の主な内容 病棟看護師研修(精神科で使用される薬剤の作用・副作用)
- ・研修の期間・実施回数 2019年6月25日
- ・研修の参加人数 20名
  
- ・研修の主な内容 病棟看護師研修（経静脈栄養について）
- ・研修の期間・実施回数 2019年11月5日



- ・ 研修の参加人数 20名
- ・ 研修の主な内容 国公立大学病院診療放射線技術者研修
- ・ 研修の期間・実施回数 令和1年10月7日～10月11日 一連
- ・ 研修の参加人数 1名
- ・ 研修の主な内容 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会
- ・ 研修の期間・実施回数 令和1年11月 1回
- ・ 研修の参加人数 1名
- ・ 研修の主な内容 日本放射線治療専門放射線技師認定機構主催放射線治療セミナー
- ・ 研修の期間・実施回数 令和2年1月 1回
- ・ 研修の参加人数 4名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容 薬剤部事務職員対象薬剤業務研修会
- ・ 研修の期間・実施回数 2020年1月17日
- ・ 研修の参加人数 4名
- ・ 研修の主な内容 不妊外来再開に向けた研修会
- ・ 研修の期間・実施回数 2020年3月18日
- ・ 研修の参加人数 23名
- ・ 研修の主な内容 特定放射性同位元素防護管理者等育成プログラム

・研修の期間・実施回数 令和1年9月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 甲状腺簡易測定研修

・研修の期間・実施回数 令和1年10月 1回

・研修の参加人数 1名

・研修の主な内容 ホールボディカウンター計測研修

・研修の期間・実施回数 令和1年12月 1回

・研修の参加人数 1名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容：第68回日本医学検査学会 スキルアップセミナー

「検査結果の解釈・臨床への報告」

・研修の期間・実施回数：令和元年5月17日

・研修の参加人数：100名

・研修の主な内容：2019年度中国・四国ブロック別研修会

「ウイルス感染症検査について」

・研修の期間・実施回数：令和元年6月28日

・研修の参加人数：90名

・研修の主な内容：令和元年度愛媛県官公庁臨床検査技師会研修会

「微生物検査の現状と検査室での取組み」

- ・研修の期間・実施回数：令和元年7月27日
- ・研修の参加人数：50名
  
- ・研修の主な内容：臨床検査セミナー2019 松山「尿検査の Modern Topics」  
「臨床検査技師に知って欲しい最新のトレンド」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年8月29日
- ・研修の参加人数：85名
  
- ・研修の主な内容：令和元年度 香臨技・四国合同研修会（微生物検査研究班）  
「検査結果の正確な解釈・臨床への報告～AST 活動へ向けて～」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年9月15日
- ・研修の参加人数：125名
  
- ・研修の主な内容：令和元年度 中国四国グループ院内感染対策研修会  
「他職種にむけて発信できる院内感染対策と AST 活動について」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年10月4日
- ・研修の参加人数：95名
  
- ・研修の主な内容：第21回国公立大学附属病院感染対策協議会  
「次世代を担う人材育成 臨床検査技師の立場から」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年10月31日～11月1日
- ・研修の参加人数：300名
  
- ・研修の主な内容：第66回日本臨床検査医学会学術集会  
「パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言」
- ・研修の期間・実施回数：令和元年11月21日～24日

・研修の参加人数：100名

・研修の主な内容：第35回日本環境感染学会総会・学術集会 Meet the Expert

「疫学検査の意味と役割～POT法を中心に～」

・研修の期間・実施回数：令和2年2月14日～15日

・研修の参加人数：50名

・研修の主な内容 保険薬局薬剤師研修（病院からの情報に基づく薬物療法について）

・研修の期間・実施回数 2019年11月29日、2019年12月26日、2020年1月29日

・研修の参加人数 10名

・研修の主な内容 保険薬局薬剤師研修（不妊外来再開に向けた薬剤部合同勉強会）

・研修の期間・実施回数 2020年2月27日

・研修の参加人数 36名

・研修の主な内容 NST研修（栄養剤について）

・研修の期間・実施回数 2019年5月30日、8月30日、10月9日、11月15日、11月22日、12月6日  
2020年2月21日

・研修の参加人数 10名

・研修の主な内容 HIV感染症出張講義

（村上記念病院、済生会今治病院、県立南宇和病院、訪問看護ステーション等5施設）

・研修の期間・実施回数 2019年6月12日、7月12日、7月31日、8月29日、9月19日、9月24日、  
10月12日、2020年2月27日

・研修の参加人数 367名

- |             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| ・研修の主な内容    | HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療・介護実地研修             |
| ・研修の期間・実施回数 | 2019年12月23-25日、2020年1月27-29日、2月17-19日 |
| ・研修の参加人数    | 6名 (2名×3)                             |

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 三浦 裕正	
管理担当者氏名	医療情報部長 今井 祐記 看護部長 久保 幸 薬剤部長 田中 守 放射線部長 城戸 輝仁 ME機器センター長 泉谷 裕則 総務課長 上甲 功治 医事課長 齋藤 英雄 人事労務課長 久保 秀二 研究協力課 猪野 周宜 医療サービス課長 松尾 一恵	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	病棟
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医療情報部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
		カルテは医療情報部で一括管理（主に電子カルテ、古いモノは一部紙カルテ）	
		1患者1カルテ 病院外への持ち出しは例外を除き原則禁止。 禁止にも関わらず持ち出した場合は、申請し、審査を受けることとなっている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課
		高度の医療の研修の実績	人事労務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 総務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部 総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 総合診療サポートセンター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療サービス課 医事課 人事労務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	運営部長 武智 和康	
閲覧担当者氏名	総務課長 上甲 功治	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要		
閲覧請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき「法人文書開示請求」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者中心の医療の実践</li> <li>2. チーム医療の実践</li> <li>3. 医療安全に関する組織的取組</li> <li>4. インシデントの報告と情報の共有</li> <li>5. 機能する医療事故防止対策</li> <li>6. 適切な医療事故への対応</li> <li>7. 患者相談の実施、指針等の閲覧</li> <li>8. 医療安全管理教育・研修、啓発</li> <li>9. 医療安全管理マニュアルの作成・更新</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有・無）</li> <li>・ 開催状況：年 1 2 回</li> <li>・ 活動の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関する事</li> <li>2. 医療事故防止対策の検討及び研究に関する事</li> <li>3. インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事</li> <li>4. 医療事故調査制度に対応する死亡原因判定に関する事</li> <li>5. 医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関する事</li> <li>6. 医療事故に対する対応策の策定に関する事</li> <li>7. 患者及び家族等の被害者への対応に関する事</li> <li>8. 関係公的機関への報告に関する事</li> <li>9. 報道に関する事</li> <li>10. その他、医療安全管理及び医療事故対策に関する事</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：             <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 高難度新規医療技術評価部の取り組み、未承認新規医薬品等評価部の取り組み (令和元年5月8日開催)</li> <li>第2回 警察OBが語る、「患者はなぜ怒る！クレーム・暴力の対応」 (令和元年10月9日開催)</li> <li>第3回 宇宙分野に学ぶチーム作り、有人宇宙飛行に学ぶ安全性とパフォーマンス (令和元年12月5日開催)</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全ラウンド：年2回計画的に実施</li> <li>2. インシデント報告後の現場ラウンド、ヒアリング（随時）</li> <li>3. 改善事例発表会：年1回医療現場からの公募方式で実施</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会その他院内の組織に関する基本事項</li> <li>3. 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針</li> <li>7. その他院内感染対策の推進のための基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>1. 院内感染の調査，予防対策に関すること</li> <li>2. 院内感染防止の実施，監視及び指導に関する活動</li> <li>3. 院内感染発生時の措置に関すること</li> <li>4. 職員の院内感染の教育に関すること</li> <li>5. その他院内感染防止に関すること</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>第1回 本当に簡単な消毒のはなし （令和元年7月1日～令和元年7月4日 開催）</li> <li>第2回 手指衛生の啓発活動とその結果、そしてこれから （令和元年10月4日 開催）</li> <li>第3回 血液培養いつとるの？ No Culture No Life! （令和2年1月28日，29日 開催）</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： ICT会議において事例を検討し，問題点の分析を実施している。また，その結果を含めて院内感染対策委員会へ報告し，重要な事例については病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。 研修会においては，参加者アンケートから研修会の要望を調査し，次年度の研修計画の参考としている。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>令和元年4月23日 医療安全セミナー 「処方薬・薬袋の取り扱いについて」「注射薬の取り扱いについて」「化学療法施行時の注意点について」「鑑別入力・持参薬入力について」「医薬品の適正使用について」「麻薬の安全使用について」</p> <p>令和2年1月21日 医療安全セミナー 「当院における副作用の管理体制について」「薬害の教訓を医療に生かす」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書として「医薬品安全管理手順書」を作成（平成19年7月1日策定）。令和元年度は令和元年12月に改定を行った。現在、令和2年度版改訂中である。</p> <p>医薬品安全手順書に基づく業務の各部署実施状況の確認は、医療安全管理部と薬剤部が協働して行う年2回の医療安全ラウンドにおいて行い、業務改善が必要な事項について指導し、改善を図っている。医療安全ラウンドでの各部署における確認結果は、医療安全管理部会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議で報告を行い、院内での情報共有を行っている。さらに、薬剤部で毎月開催している医療安全管理カンファレンスにおいても報告を行い、薬剤師間での情報共有を図っている。</p> <p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 髄芽腫再発に対するテモゾロミド、ナゼア、ダイフェンの使用 局所多汗症における塩化アルミニウムサリチル酸ゲルの治療 表在性皮膚腫瘍の止血目的でのモーズ (Mohs) 軟膏の使用 など</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ●調剤時以外での禁忌該当薬剤の確認体制 薬剤部薬品情報管理室において、処方薬剤に対して禁忌病名が登録されている入院患者情報を抽出している。抽出された情報に基づき病棟担当薬剤師が担当医に禁忌該当薬剤に対する疑義照会を行い、当該薬剤処方継続の可否の確認、必要に応じて処方提案を行っている。また、疑義照会の結果、既に終了している病名であった場合は病名整理を依頼し、適切に医薬品が使用できるよう努めている。また、これらの病名に関する禁忌の情報は毎月医事課にも報告しており、医事課からも病名整理を依頼している。</p> <p>●医療安全管理委員会への医薬品安全管理報告体制 医薬品安全管理体制を担っている部門（薬剤部）における医薬品の安全使用に係る業務を医療安全管理委員会へ報告している。内容は、院内副作用報告件数および医薬品安全性情報報告件数、院内院外疑義照会件数、プレアボイド報告件数、禁忌該当薬剤の確認数等である。医療安全管理委員会は医薬品安全管理体制の部門を監査し、必要に応じて意見することとしている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年24回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新規医療機器導入時</li> <li>② 使用方法、保守点検に関して</li> <li>③ 有用性や安全性に関して</li> <li>④ 不具合等発生時の対応に関して</li> <li>⑤ 学会、研修会への出席</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 定期点検と日常点検および不良対応点検</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</li>   <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>愛媛大学医学部附属病院副病院長に関する規定 第3条3 病院長は、医療安全を担当する副病院長を医療法施行規則第9条の20の2第1項第1号に規定する医療安全管理責任者に指名し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 3名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬品情報管理室において医薬品に関する情報（イエローレター、ブルーレター、回収・出荷停止、適正使用のお願い、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品安全対策情報、PMDA 医療安全情報、日本医療機能評価機構医療安全情報、添付文書改訂、PMDA からの公知申請情報・適応外情報）を一元的に収集し、院内メーリングリストや院内イントラネット、電子カルテ掲示板を利用し周知している。また、DI ニュース、プレアボイドニュース、薬事委員会において決定した新規採用・削除薬一覧表（New Face）を作成し、メーリングリストおよび紙媒体等を用いて院内へ周知している。</p> <p>特に重要な情報（イエローレター、ブルーレター、その他薬品情報管理室が重要と判断した内容）については、上記の周知に加えてデータウェアハウスを用いて抽出した該当薬品使用中の全患者を対象とした適正使用のモニタリング、処方医に対する電子カルテでの個別メールによる情報提供も行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内において未承認、適応外あるいは禁忌薬（以後、未承認新規医薬品等）を新たに使用する場合には、未承認新規医薬品等評価部に必要書類を提出する。書類とは①未承認新規医薬品等 申請・報告書式、②患者向け説明文書、③患者同意書、④患者同意撤回書、⑤未承認新規医薬品等を使用する根拠となるエビデンス（文献等）、⑥医薬品を用いる場合は当該医薬品の添付文書 であり、未承認新規医薬品等評価部は申請内容に関して未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求めた上で使用の可否を決定する。なお、承認された未承認新規医薬品等に関しては実施報告書や適正使用モニタリング等の管理を行う。</p> <p>また、薬剤部において薬剤師が調剤時に当該薬品が未承認新規医薬品等に該当すると認識した場合</p>	

は、担当医へ疑義照会を行い、必要に応じて妥当性の確認や処方提案を行っている。結果に関しては診療録へ記録し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。これらの未承認新規医薬品等に係る疑義照会情報は薬品情報管理室で収集し、院内の医療安全管理委員会へ報告する体制をとっている。

・担当者の指名の有無  (有) ・ 無

・担当者の所属・職種：

(所属：未承認新規医薬品等評価部 ， 職種 薬剤師 (副薬剤部長))

(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 (薬品情報管理室室長))

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有 ・ 無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無  ( ) 有 ・ 無

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容確認方法：各リスクマネージャーを通して確認

指導内容：説明内容，説明手順，説明方法，成立要件，説明同意書，診療録への記載，責任者の配置

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有 ・ 無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

日々、診療録の量的な監査（入院診療計画書，退院時要約，手術記録，経過記録等の確認）を中央病歴室（診療情報管理士及び医療事務有資格事務員）にて実施し，記載内容に不備等がある場合は記載者へ連絡し修正を依頼している。

年2回，診療録の質的な監査（入院診療計画書，退院時要約，手術記録，経過記録等の記載内容の確認）を医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、診療情報管理士等が実施し，その結果を診療記録管理委員会にて報告，検討を行っている。そこで議決された診療録記載上注意すべき点や指導すべき点等を記載医師所属診療科及び院内へ周知している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 ・ 無

・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（20）名

うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（8）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名

うち看護師：専従（３）名、専任（０）名、兼任（８）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 報告があったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関する事
2. インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関する事
3. インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関する事
4. 医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関する事
5. 医療安全管理委員会で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関する事
6. 安全管理に関する教育・研修等の実施に関する事
7. 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関する事
8. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関する事。
9. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関する事
10. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導に関する事
11. 他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネージャー等との連絡調整に関する事
12. 医療事故防止等に係る情報提供に関する事
13. その他医療の質の向上及び安全管理に関する事

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（５件）、及び許可件数（５件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

高難度新規医療技術を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。



- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 65 件 ) 、及び許可件数 ( 65 件 )
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 活動の主な内容 :

未承認新規医薬品等を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 146 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 79 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容  
患者影響レベル 3b 以上のインシデントの分析及び再発防止策の検討。死亡事例検討会の結果報告確認

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名 : 京都府立医科大学附属病院) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名 : 群馬大学医学部附属病院) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況

未承認新規医薬品等評価委員会に看護師の参加が望ましいとの意見があり、委員会の委員として看護師を追加した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合診療サポートセンターが患者からの相談窓口となっている。個室の面談室9室、オープンな相談ブースを4ヶ所設置し、対応している。中でも、医療安全に係る相談については、総合診療サポートセンターのメディエーターが主に対応し、医療サービス課・医療安全管理部が連携できる体制をとっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 新規採用者へのオリエンテーション
2. 医療安全に関する講演会（3回）
3. 医療安全セミナー（4回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が公益財団法人日本医療機能評価機構主催の2019年度特定機能病院管理者研修（継続・1日間）を受講。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師免許を有している者</li> <li>・ 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</li> <li>・ 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</li> <li>・ 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者</li> </ul> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法 愛媛大学HPに掲載</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
八尋 秀典	理事(財務・人事マネジメント)	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有・無
山下 政克	医学系研究科長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有・無
羽藤 直人	医学専攻長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有・無
日浅 陽一	附属病院副病院長		学長が指名する副病院長	<input checked="" type="radio"/> 有・無
久保 幸	附属病院看護部長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有・無
大熊 伸定	弁護士法人松山中央法律事務所		弁護士として、法律について豊富な知見を有している	有 <input checked="" type="radio"/> 無
高橋 敏彦	愛媛県保健福祉部		愛媛県の保健医療に係る責任者として、地域の医療政策に関する豊富な経験と高い知識を有している	有 <input checked="" type="radio"/> 無
横山 ぬい	株式会社エス・ピー・シ 一常務取締役		国立大学法人愛媛大学経営協議会委員であり、メディア事業を通じて、地域活性化について豊富な経験と高い識見を有している	有 <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 運営方針, 中期計画, 予算及び決算その他病院の運営に関する重要事項</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 愛媛大学医学部内職員専用サイトに資料・議事要旨を掲載</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・公表の方法 愛媛大学HPに掲載</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( (有)・無 )</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
三浦 裕正	○	医師	病院長／人工関節センター長
杉山 隆		医師	副病院長(総務・診療担当)／周産母子センター長
國枝 武治		医師	副病院長(病院経営担当)
萬家 俊博		医師	副病院長(医療安全・危機管理担当)／手術部長／痛みセンター長
日浅 陽一		医師	副病院長(地域連携・地域医療再生担当)／総合診療サポートセンター長／第三内科長
久保 幸		看護師	副病院長(患者サービス担当)／看護部長
今井 祐記		医師	副病院長(橋渡し研究推進担当)／医療情報部長
竹中 克斗		医師	第一内科長
山口 修		医師	第二内科長
大八木 保政		医師	老年・神経内科長

大澤 春彦		医師	糖尿病内科・臨床検査医学科長／検査部長
永井 将弘		医師	薬物療法・神経内科長／臨床研究支援センター長／ 臨床研究データセンター長／臨床研究COIマネジメント 部長
川本 龍一		医師	総合診療科長
上野 修一		医師	精神科長／認知症疾患医療センター長
江口 真理子		医師	小児科長／臨床遺伝医療部長
渡部 祐司		医師	消化器腫瘍外科長／高難度新規医療技術評価部長／ 材料部長／低侵襲・がん治療センター長
高田 泰次		医師	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長／臓器・組織移植センタ ー長
泉谷 裕則		医師	心臓血管・呼吸器外科長／ME 機器センター長
今井 浩		医師	整形外科長／リハビリテーション部長
佐山 浩二		医師	皮膚科長
中岡 啓喜		医師	形成外科長
雑賀 隆史		医師	泌尿器科長
白石 敦		医師	眼科長／細胞プロセッシングセンター長
羽藤 直人		医師	耳鼻咽喉科長
城戸 輝仁		医師	放射線科長／放射線部長
内田 大亮		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科長
佐藤 格夫		医師	救急科長／救急部長
山之内 純		医師	輸血・細胞治療部長
高崎 康史		医師	集中治療部長
北澤 理子		医師	病理部長
木村 映善		医師	医療情報部長
池田 宜央		医師	光学医療診療部長
菊川 忠彦		医師	透析治療部長
鈴木 純		医師	医療安全管理部長
渡邊 英昭		医師	脳卒中センター長
西村 誠		医師	循環器病センター長
利光 久美子		管理栄養士	栄養部長

谷本 一史		医師	造血細胞移植センター長
伊賀瀬 道也		医師	抗加齢・予防医療センター長
田内 久道		医師	感染制御部長
薬師神 芳洋		医師	腫瘍センター長／緩和ケアセンター長
徳本 良雄		医師	肝疾患診療相談センター長
森野 忠夫		医師	脊椎センター長
宮川 正男		医師	PETセンター長
佐野 由文		医師	呼吸器センター長
打田 俊司		医師	小児総合医療センター長
原 祐子		医師	屈折矯正センター長
亀井 義明		医師	乳腺センター長
岡 靖哲		医師	睡眠医療センター長
森 崇明		医師	認知症疾患医療センター長
本田 弘文		診療放射線技師	放射線治療品質保証室長
堀内 史枝		医師	子どものこころセンター長
飛鷹 範明		薬剤師	未承認新規医薬品等評価部長
竹下 英次		医師	炎症性腸疾患センター長
田中 守		薬剤師	薬剤部長／臨床研究クオリティマネジメント部
宮本 仁志		臨床検査技師	診療支援部長
熊木 天児		医師	総合臨床研修センター長
今村 健志		医師	先端医療創生センター長
武智 和康		事務職員	医学部運営部長
山下 政克		教員	医学系研究科長(医学部長)
松浦 文三		医師	地域生活習慣病・内分泌講座 教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
愛媛大学HPに掲載
- ・ 規程の主な内容  
人事権限・予算執行権限
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】 副病院長（総務・診療担当/病院経営担当/医療安全・危機管理担当/地域連携・地域医療再生担当/患者サービス担当/橋渡し研究推進担当）  
病院長補佐（災害担当）

【役割】 病院長の職務を補佐し、病院長から指示された重要な事項を処理する。

【職名】 （副病院長のうち総務担当）

【役割】 病院長が不在又は事故があるときは、その職務を代理する。

【職名】 （副病院長のうち医療安全担当）

【役割】 医療安全管理責任者として医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
厚労省委託事業の特定機能病院管理者養成研修に4名参加し、国立大学附属病院長会議等企画の病院経営次世代リーダー養成塾に2名参加した等、各種研修の受講を促している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>    次の事項について審議する。</p> <p>    (1) 病院の医療安全に係る業務執行状況の監査に関すること。</p> <p>    (2) 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>    愛媛大学HPに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西村 誠明	無所属	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
大熊 伸定	弁護士法人松山中央法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者団体連絡協議会 愛媛県腎臓病患者連絡協議会		医療を受ける者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他



規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
監査室を設置し、監事及び会計監査人と連携して監査を実施している。
  
- ・専門部署の設置の有無（有・無）
- ・内部規程の整備の有無（有・無）
- ・内部規程の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法  
愛媛大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況            国立大学法人法に基づき、役員会・経営協議会を設置し、病院の業務・管理運営及び経営に関する重要事項を審議・報告している。</li> <li>・ 会議体の実施状況            (役員会 令和元年度 24回 経営協議会 令和元年度 4回)</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )            (役員会 令和元年度 18回 経営協議会 令和元年度 3回)</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</li> <li>・ 公表の方法            愛媛大学HPに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>愛媛大学教職員向けポータルサイト内に「相談窓口」のページを設け、様々な事案毎の相談窓口及び連絡先等を掲載している。その中に、医療安全管理の適正な実施に関する情報提供を受け付ける相談窓口の設置について掲載しており、加えて、本件について事務連絡メールを全教職員に送付し周知を図っている。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 病院機能評価：公益財団法人日本医療機能評価機構 2016年10月18日～10月19日 * 認定期間 2017年1月21日～2022年1月20日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 本院の目的・目標、果たすべき役割及び実績等をまとめた冊子「医学部／附属病院概要」を毎年作成・発行するとともに、電子BOOKとしてオリジナルホームページにも掲載している。 また、DPCデータによる病院指標も公表し、当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくよう情報発信に務めている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせたセンターによる診察を行っている。 1. 周産母子センター（産婦人科、小児科） 2. 小児医療総合センター（小児科、心臓血管・呼吸器外科） 3. 呼吸器センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）	

4. 脊椎センター（整形外科、脳神経外科）
5. 睡眠センター（第二内科、耳鼻咽喉科）
6. 循環器病センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）
7. 緩和ケアセンター（腫瘍センター、麻酔科蘇生科）
8. 認知症疾患医療センター（精神科、臨床薬理神経内科、脳神経内科）
9. 子どものこころセンター（精神科、小児科）

など